

研究報告書第76号

G11-02

小学校・中学校・高等学校を通した キャリア教育の在り方について (最終報告書)

2007.3

山形県教育センター

は し が き

キャリア教育という考えは、平成11年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の中で、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」として示されました。これは、児童生徒が、将来、良き職業人・社会人として自立するためには、小学校段階から組織的・系統的に、キャリア発達を支援する教育が行われなければならないという考えによるものです。

その背景には、少子化、高齢化社会の到来や産業構造の変化、勤労観・価値観の変化など、急速に変化する社会の中で、ニートやフリーターの増加、早期離職者の増加や高学歴社会におけるモラトリウム傾向など、若者をめぐる様々な問題が顕在化してきているということがあります。直面する課題に柔軟に対処し、しっかりと自立できる人間を育てる教育の確立は、日本の将来にかかわる重要な課題と言えます。子どもたちが、過去・現在・未来の自分を見据え、社会との関わりの中で自己の役割や自分らしい生き方を自覚し、必要とされる能力や態度を発達段階に応じて身に付けていくためには、子どもたちの内面の成長と深く結びついた教育が計画的に行われる必要があります。そうした、全人的な成長・発達を促す視点に立った取り組みを、幼年期から青年期を通じて組織的・系統的に行おうとするのがキャリア教育であろうと思います。

しかし、各学校の現状は、キャリア教育が求められる背景やおおまかな考え方は理解されているものの、明確な概念把握や教育課程への位置づけ、学校内での共通理解と体制づくり、全体計画の作成、保護者や地域との連携、等が十分になされているとは言い難い状況にあると言えます。

本調査研究においては、そうした実情を踏まえ、キャリア教育の全体像を描くとともに、必要とされる意欲や態度、能力を類型化し、その育成プログラムを発達段階に応じて例示して、昨年3月に第1次報告書をまとめました。さらに、キャリア教育指導者養成講座の実践内容と改善計画および小学校・中学校・高等学校計8校の先進的実践事例と考察を加えてまとめたものが本報告書です。

キャリア教育の推進とは、これまでの教育に新しく何かを付け加えることではなく、児童生徒一人ひとりのキャリア発達という視点で教育課程を見直し、体系的にキャリア発達が支援されるよう、改善を図っていくことだろうと思います。そのためには、キャリア発達に必要な能力や資質を把握し、その発達過程や育成場面、育成方法や課題等を明らかにすることが大切です。本報告書はそれに応えるものでもあります。本報告書に例示された学習プログラムや多くの実践事例を、ぜひ各学校で役立てていただきたいと思います。本報告書が校内研修等で活用され、各学校でのキャリア教育に関する理解がいつそう深まり、総合的な学習の時間や特別活動、道徳、教科等で、子どもたちのキャリア発達に必要な能力や資質が、いつそう組織的・系統的に育まれるならば大変うれしく思います。

最後になりましたが、2年間の調査研究にあたり、お忙しい中、真剣に討議を重ね、学校現場におけるキャリア教育の指針ともなるべき報告書をまとめていただいた、東北公益文科大学教授 國眼眞理子委員長をはじめとする調査研究委員、研究協力者並びに関係各位に心より御礼申し上げます。

平成19年3月

山形県教育センター

所 長 勝 見 英一郎

報告にあたって

キャリア教育はフリーターやニートと呼ばれる学校から社会への移行につまずいた若者の増大からその必要性が叫ばれるようになりましたが、キャリア教育そのものは世の中の景気等の変動とは別に、子どもたちが自らの学びの意味をつかみ、社会人職業人としての生き方を探索する力をつけるために必須の学びです。

労働政策・研究研修機構の調査（2006）によれば18～29歳（学生を除く）男女1,981人のうち、全体の50.9%がフリーターないしフリーター経験者であり、2001年の前回調査と比べ14.7%の増加、とりわけ18～19歳では男女とも7割がその経験者であったと指摘されています（日本経済新聞、2007/02/20）。この数値は価値観の多様化や情報化が進む社会のなかで、若者がひとりの力で社会人職業人としての生き方を掴むことは大変に困難な課題であることを示すものと言えます。

本県では昨年度より「いのち、まなび、かかわり」のスローガンのもと第5次教育振興計画が推進されております。キャリア教育もまた、自他を尊重しつつ、ひととの関わりの中で自らの学び意味を把握し学びを深める教育の一環として推進していきたいと思っております。

昨今学校教育に対してはさまざまな期待が寄せられ、とりわけ学力の向上に関する期待は大きいものがあります。窮屈な教育課程のなかで新たな視点から新たな行事を導入することには異論があることも予想されますが、これまで行われてきた教育をキャリアという視点から再編成するのだと考え、単なる職業教育にとどめない工夫が必要だと考えます。

キャリア教育とは職業人として生きる自分を考えるために学ぶだけではなく、社会人としていかに生きるかを探索する力を育てることをねらいとした教育です。個人あるいは自らが所属する組織の利益といった限定的かつ近視眼的な視点ではなく社会全体の利益を考える力の醸成をめざしたいものです。

ところでこうしたキャリア教育は教師、地域、家庭の三者の連携が欠かせません。教育の方向性や身に付ける力、その方策等々に関して、学校のリーダーシップが不可欠であり、個々の児童生徒と関わる力や、家庭や地域の方と連携をとり交渉する力の一層の向上が期待されるところであります。キャリア教育は未来志向の教育であるとともに、学校と地域、家庭の連携が実を結ぶとき、地域で子どもを育むという意識が生まれる契機になるものと信じます。

本県でのキャリア教育の実践はまだ緒に就いたばかりです。本報告書にまとめられた先見例を基盤にして一層の充実を図る必要があり、今後は小中高の各段階でのキャリア教育の一貫性整合性を図ることが課題となってまいります。キャリア教育にかかわる多くの方々からの本報告書に対する忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

最後になりますが、小中高等学校のお立場から、また企業の人材育成に携わるお立場から、各委員には率直な議論を重ねていただきましたこと、またその議論を踏まえてとりまとめにご尽力いただきました事務局のみなさまに篤く御礼申し上げます。

平成19年3月

キャリア教育調査研究委員会

委員長 國 眼 眞理子

目 次

は し が き

報告にあたって

第1章 キャリア教育が求められる背景 5

- (1) 経済的な豊かさと価値観の多様化
- (2) 社会体験の減少
- (3) 高学歴化と進路決定の先送り
- (4) 経済のグローバル化の進行

第2章 キャリア教育の理念と基本方向 7

第1節 山形県がめざすキャリア教育 7

- (1) キャリア教育とは
- (2) キャリア教育のねらい

第2節 山形県におけるキャリア教育の基本方向 9

- (1) 従来の教育を踏まえたキャリア教育
- (2) 児童生徒一人一人のキャリア発達への支援

第3章 キャリア教育の基本的内容 10

第1節 発達段階を踏まえた諸能力・態度の育成 10

第2節 各学校段階におけるキャリア教育 10

- (1) 小学校段階におけるキャリア教育
- (2) 中学校段階におけるキャリア教育
- (3) 高等学校段階におけるキャリア教育

第3節 キャリア教育を進めるにあたって 12

- (1) すべての教育活動を通じて行われるキャリア教育
- (2) 保護者や地域、企業、大学、関係機関との連携

第4章 キャリア教育の学習プログラム 13

第1節 自校における「学習プログラムの枠組み」の作成 13

第2節 白校における目標の設定	13
第3節 教育課程への位置づけと具体的な学習プログラム	14
(1) 特別活動の学級（ホームルーム）活動、学校行事等への位置づけ	
(2) 各教科（科目）、道徳及び総合的な学習の時間への位置づけ	
(3) 年間を通した学習プログラム（例）	
第5章 キャリア教育の実践事例	31
第1節 実践事例をみる視点	31
第2節 白鷹町におけるキャリア教育の取り組みについて	32
第3節 実践事例	33
1 小学校 (1) 白鷹町立蚕桑小学校	33
(2) 白鷹町立鮎貝小学校	37
(3) 白鷹町立鷹山小学校	41
2 中学校 (1) 白鷹町立西中学校	47
(2) 大石町立大石田第一中学校	53
3 高等学校 (1) 山形県立谷地高等学校	61
(2) 山形県立荒砥高等学校	67
(3) 酒田市立酒田中央高等学校	71
第6章 キャリア教育を推進する指導力の向上	79
(1) 教員の資質・指導力向上	
(2) 教員の指導力向上のための研修内容	
(3) 教員研修の実際	
第7章 キャリア教育の推進に向けて	83
参考資料	87
1 山形県の現状～本県高卒者の進学・就職状況等～	
2 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」	
① 学校段階別に見た職業的（進路）発達段階、職業的（進路）発達課題	
② 職業的（進路）発達にかかわる諸能力	
③ 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）	
——職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から	

第1章 キャリア教育が求められる背景

平成11年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（以下、「接続答申」という。）の中で、「学校教育と職業生活との接続」をいかに改善するかという問題が指摘され、キャリア教育の重要性が強く叫ばれるようになりました。

若者のフリーター志向の広がりやニート（NEET：Not in Education, Employment or Training）、早期離職者の増加等、学校から社会へスムーズに移行できない若者の増加は、今日、深刻な社会問題となっています。こうした現象は、価値観の多様化や社会体験の減少などといった生活環境の変化とともに、高学歴化や経済のグローバル化など、社会環境の変化とも深く関係し合っていると考えられます。

(1) 経済的な豊かさと価値観の多様化

豊かで成熟した社会にあって、人々の価値観や生き方が多様化し、児童生徒が、自己及び他者への積極的な関心の形成や、勤労観、職業観の形成などの発達課題を達成することが困難になっています。

(2) 社会体験の減少

少子化、核家族化、都市化などの進展や情報の発達によって、幼少期からの様々な直接体験の機会や異年齢者との交流の場が減少し、児童生徒の成長・発達を支える上で不可欠な、多様で幅広い人間関係を構築することが難しくなっています。

(3) 高学歴化と進路決定の先送り^{※1}

少子化や家庭の経済的ゆとりの増大は、高学歴志向等を背景として、大学、短期大学、専門学校等の高等教育機関に進学する者の割合を著しく上昇させました。そうした動きに伴い、若者が職業を選択し決定することを先送りする傾向が強くなり、進路意識や目的意識が希薄なまま、とりあえず進学する若者が増加していることが指摘されています。

(4) 経済のグローバル化の進行

経済のグローバル化が進展し、激しい競争を強いられる中、企業はコスト削減や経営の合理化、製造部門の海外移転をはじめ、営業・販売部門等の再構築や、それに伴う雇用調整等を進めています。また、職業人に求められる資質や能力も大きく変化し、採用においては、即戦力志向の高まりや業務の高度化に伴い、経験者採用や中途採用が進むとともに、定型的業務につ

※1 山形県の現状～本県高卒者の進学・就職状況～（参考資料1）

いては、外部委託等の比重が高まり、一時的雇用や非正規雇用（アルバイトやパート等）の割合が増加しています。

以上指摘したことなどを背景として、小学校・中学校・高等学校を通したキャリア教育を推進することが強く求められるようになりました。児童生徒一人一人がこのような環境の変化に対応しながら、将来に向かって夢や目標を持ち、力強く生きていくために、学ぶ意欲、働く意欲や、高い職業能力を育成することが求められています。また、これらの前提となる基本的な生活習慣を確立させることや、自らの進路を主体的に決定し、社会人、職業人として自立して生きる力、人間関係を形成したり社会に適応したりする力の育成も求められています。

第2章 キャリア教育の理念と基本方向

第1節 山形県がめざすキャリア教育

(1) キャリア教育とは

○キャリア

平成16年1月の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（以下、「協力者会議報告書」という。）では、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」としてとらえています。このことから、働いている人にはみなそれぞれに固有のキャリアがあると理解することができます。ここで言う「働くこと」の中には、職業生活以外にも多様な活動があることから、個人がその職業生活、家庭生活、市民生活等の全生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として広くとらえることが必要です。

これを小学校・中学校・高等学校にあてはめると、児童生徒が「学校や地域における諸活動に参加し役割を果たすこと」であり、キャリアとは主として「様々な役割を通して、自己と学校における活動とを関連付け、価値付けていくこと」ということになります。

○キャリア発達

キャリアは児童生徒の発達段階やその発達課題の達成と深くかわりながら段階を追って発達していくものであり、このことを「キャリア発達」と定義します。「協力者会議報告書」では、人間の成長・発達の過程を、キャリア発達の視点からとらえなおし、いくつかの段階（職業的（進路）発達段階）[※]を設定し、それらの段階で取り組まなければならない課題（職業的（進路）発達課題）[※]を示しています。

○勤労観、職業観

「勤労観」とは、勤労に対する価値的な理解・知識にとどまらず、職業としての仕事だけでなく、ボランティア活動、家事、手伝い、その他役割遂行を含む働くことそのものに対する個人の見方や考え方、価値観であり、個人が働くこととどのように向き合って生きていくかという姿勢や構えを規定する基準となるものです。

「職業観」とは、人それぞれの職業に対する価値的な理解、即ち、どんな職業があり、それぞれの職業ではどのような仕事をし、どんな専門的な資質・能力が必要なのかなどについての知識・理解をもとに、自分はどの職業にどんな働きがいや誇りを見いだそうとするのか、あるいは、生きていく上で職業にどのような意味づけを与えていくかということであり、職業の果たす意義や役割についての認識です。

また、「勤労観」「職業観」は、「勤労観・職業観」として一体的に取り扱われる場合も多い

※ 2、3 学校段階別に見た職業的（進路）発達段階、職業的（進路）発達課題（参考資料2-①）

のですが、「勤労観」では役割遂行への意欲や勤勉さ、責任感などの情意面が重視され、「職業観」では様々な職業の世界及び職業倫理などについての理解や認識などの要素が含まれるなどの違いに留意する必要があります。学校において体験活動等を展開するにあたっては、児童生徒の発達段階、学習活動のねらいに応じ、「勤労観」、「職業観」のいずれに重点を置くかなどを明確にして実施する必要があると考えられます。

○キャリア教育

「キャリア教育」については、「接続答申」では、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」としています。その後の「協力者会議報告書」では、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえています。児童生徒が、長い人生を歩む上で職業に就くこと、働くことにどのような意義があるのかを考え、価値観を形成することができるよう、働く者や学ぶ者としての自らのキャリアを構築する準備をさせるという視点で、学校においては学校の実情に応じて、共通した認識で教育実践することが重要です。

(2) キャリア教育のねらい

本報告書では、山形県におけるキャリア教育のねらいを、「社会に参画することや働くことを通して、児童生徒が社会の一員として幸せな生活を営んでいくための生きる（生き抜く）力を育むこと」としました。

これは、第5次山形県教育振興計画の基本方策「いのちの教育」で育てる態度のひとつである『人のために役に立つ喜びを味わうとともに、自分らしい「生き方」を発見し、それを伸ばそうと努力する』ことと重なるものです。児童生徒が「社会のさまざまな人とのかかわりの中で、人の役に立つ喜びを味わいながら、自らの役割について考える」ことができるよう、具体的には、以下の取組などによってキャリア教育のねらいを達成します。

- ① 児童生徒が他の人々の生き方に触れる学習などを通して、自分がどう生きるかを考え、自分の将来設計ができる力を身に付けること。
- ② 児童生徒が家庭生活、地域参加活動、就労体験などを通して、人の役に立つ喜び、成し遂げることの困難さや成就感を体験し、将来どのように働くかを考え、主体的に進路選択ができる力を身に付けること。
- ③ 児童生徒が自己の進路実現のために何をどう学ぶかを考え、学びの中から将来直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立できるような「生きる力」を身に付けること。

第2節 山形県におけるキャリア教育の基本方向

(1) 従来の教育を踏まえたキャリア教育

中学校・高等学校においては、進路指導は一個の独立した領域として教育課程に位置づけられています。一方、小学校においては、進路指導は学習指導要領に明記されてはいませんが、全教育活動を通して行う生き方の指導や、勤労観、職業観の育成にかかわることとして、学校教育活動の中で従来から取り組まれてきています。

進路指導は、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう、指導・援助することです。進路指導の定義・概念については、キャリア教育と大きな差異は見られず、進路指導はキャリア教育の中核をなすものといえます。また、現行の学校教育活動の内容には、キャリア教育に関する事項が多く含まれています。しかし、これまでの進路指導の取組が、本来あるべき姿で展開されてきたかどうかを点検し、キャリア教育の視点に立って見直す必要があります。その際、「進路発達または進路決定にかかる指導」と「集団または個人を対象とした指導」のなかでも「個別指導による一人一人の進路発達の指導及び援助」を充実させることが重要です。

(2) 児童生徒一人一人のキャリア発達への支援

進路指導の取組は、児童生徒の発達段階による興味・関心や意欲、理解・認識能力等の違いを踏まえて行われる必要があります。児童生徒一人一人の勤労観、職業観が、児童生徒の発達段階に応じて育成されず不十分なままであれば、その育成を行ってから次の発達段階における育成にとりかかる必要があります。このように、児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育成するには、それらが児童生徒の成長とともに発達することを踏まえ、各発達段階における発達課題が達成できるように、小学校の段階から継続的に支援し続ける必要があります。

第3章 キャリア教育の基本的内容

第1節 発達段階を踏まえた諸能力・態度の育成

平成14年11月の国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」（以下、「調査研究報告書」という。）では、職業的（進路）発達にかかわる諸能力※4を、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の4つの能力領域に大別し、さらに、小学校の低・中・高学年、中学校、高等学校の各段階において身に付けさせたい能力・態度を具体的に例示※5しています。児童生徒一人一人のこころの成長・発達をうながすという視点に立ち、小学校・中学校・高等学校の各段階において、それらの諸能力や態度を計画的・系統的に育んでいくことが必要です。児童生徒の成長に伴い、それぞれの発達段階に応じて、働くことに対する関心や意欲が向上し、諸能力や態度が形成されるよう支援します。

第2節 各学校段階におけるキャリア教育

(1) 小学校段階におけるキャリア教育

進路の探索・選択等を行う基盤を形成する時期であることを踏まえ、職業的（進路）発達にかかわる次のような能力や態度が形成されるよう支援します。

- ① 学校、家庭、地域での諸活動の中で、自分の役割を果たすこと等を通して、自分のよさに気づき、自分のよさを伸ばしていくとともに、友達のよさや考えも認め、互いに協力して学習や活動に取り組むことができる。
- ② 家族の職業に触れる活動等を通して、身近な人の仕事や職業を知り、生活と職業とのかわりや自分の将来について、イメージを持ち考えることができる。
- ③ 家庭での手伝いや学校での係活動・体験活動等を通して、働くことの大切さを知るとともに、仕事における役割の必要性和自分の仕事に対する責任を理解することができる。
- ④ 「将来どんな人になりたいか」「大きくなったらどんな仕事に就きたいか」等の夢や希望を膨らませ、素直に自己の将来を設計し、生活・学習の課題を自分の力で解決していく等、物事に対して前向きに取り組むことができる。

(2) 中学校段階におけるキャリア教育

進路についての現実的探索と暫定的選択を行う時期であることを踏まえ、職業的（進路）発達にかかわる次のような能力や態度が形成されるよう支援します。

※4 職業的（進路）発達にかかわる諸能力（参考資料2-②）

※5 職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）（参考資料2-③）

- ① 学校、家庭、地域での諸活動の中で、他者（学校内、学校外の人）とのかかわりを通して、肯定的な自己理解や、自己有用感を獲得するとともに、自他を尊重した豊かなコミュニケーション能力を身に付けることができる。
- ② 職業や進路に関する多くの情報を主体的に収集するとともに、必要な情報を選択、活用して、多様な職業の世界を知り、自分の生き方や進路に関する現実的な探索を積極的に行うことができる。
- ③ 職場体験学習や上級学校調査等を通して、働くことの意義や働く人々の生き方、職業の社会的な役割を知るとともに、学ぶことと生活や職業との関連、今学習していることの必要性や意味を理解することができる。
- ④ 将来の夢や希望の実現に向け暫定的な進路計画を立案し、その実現のために生活や学習の充実に努め、自覚を持って進路を選択できる等、主体的に生きる力を身に付けることができる。

(3) 高等学校段階におけるキャリア教育

進路の現実的探索を深化させ、社会的移行を準備する時期であることを踏まえ、職業的（進路）発達にかかわる次のような能力や態度が形成されるよう支援します。

- ① 将来設計を明確化し、主体的な選択基準となる勤労観、職業観を確立することができる。自己理解を一層深め、自己の能力や適性を理解し伸長させるとともに、他者との交流を通して多様な価値観を知り、自己の成長を図ることができる。
- ② 情報収集能力や情報活用能力を高め、社会の動きを知り、社会に対する関心を高めることができる。また、職業や上級学校に関する情報を収集・検討し、社会のニーズや就業機会を知るとともに、自己の進路を具体的に選択し、自己の希望や能力・適性に照らした的確な将来設計をすることができる。
- ③ インターンシップやオープンキャンパス等の試行体験活動を通して自己の生き方を見つめ直し、働くことや学ぶことの意義を再確認する。現実の世界をしっかりと認識し、将来の生き方や職業を選択することができる。
- ④ 将来設計を具体化するための進路計画を立案し、積極的に試行することができる。また、進路選択はキャリア形成の第一歩であることを認識し、将来にわたって仕事と個人生活との両立を図りながら、自己実現を図ることができるよう、長期的な視点を持つことができる。

なお、高等学校卒業後に希望する進路に応じて、次のような支援をします。

就職を希望する生徒については、

- 希望する職業が求める資質や能力を理解し、実現に向けた進路設計を行えるようにする。
- 働くことの意義を理解するとともに、専門的な知識・技能を習得し、より高めようとする姿勢を持てるようにする。

進学を希望する生徒については、

- 上級学校卒業後、社会人、職業人として生きるという強い自覚を持てるようにする。

- 学習することの意義を理解し、各教科等の学習を通して自己の生き方を探求し、社会や職業への関心や意欲を高めるようにする。

第3節 キャリア教育を進めるにあたって

(1) すべての教育活動を通じて行われるキャリア教育

キャリア教育を進めるにあたっては、これまでの教育活動を、キャリア発達を支援するという視点から点検し、改善を図っていくことが求められます。

キャリア教育は学校のすべての教育活動を通じて行われる必要があります、そのねらいを達成するためには、関連するさまざまな取組が、各学校の教育課程に適切に位置づけられ、計画性と系統性を持って展開されることが大切です。そのためには、発達の各段階において身に付けるべき能力や態度について、児童生徒一人一人の発達の状況を把握・整理し、その児童生徒の伸ばしたい能力や態度の育成を図る教育活動の計画になっているか、各学校での見直しと改善が必要です。その際、すべての教育活動の中に、児童生徒一人一人が自らの生き方を求めようとする視点を持つことが大切です。

また、近年、不足していると指摘されている児童生徒の人間関係形成能力を育成するために、社会の一員として、自他を尊重した人間関係を築いていく基盤となるコミュニケーション能力の育成には特に力を入れていく必要があります。

(2) 保護者や地域、企業、大学、関係機関との連携

キャリア教育を進めるにあたっては、保護者との共通理解を図りながら進めることが必要です。働くことに対する価値観や生き方は家庭の中で生まれ、児童生徒の発達に極めて大きな影響を与えます。家族の一員である子どもに、「社会生活や働くことには様々な苦勞もあるが、大きなやりがいや達成感がある」ということを、家庭の中で、折にふれて伝えることができるように働きかけることが大切です。

また、人間は身近な人々との口頃からのかかわりや、地域の共同作業などを通して、社会の中で必要な生きる術を多く身に付けていきます。児童生徒を地域社会の行事やボランティア活動、サークル活動、職場体験、インターンシップ、オープンキャンパスや大学教員を招いての模擬授業等、様々な催しや活動に積極的に参加させ、そのような体験活動等を通して、児童生徒が多くの人々とかかわりを持つことができるよう、学校、家庭、地域等が一体となって計画し、実施することが大切です。

第4章 キャリア教育の学習プログラム

キャリア教育は、学校において、全く新しい学習や活動を始めようとするものではありません。これまで実施してきた教育活動を、キャリア教育の視点でとらえなおし、個々の学習や活動を体系化し、すべての教育活動を通して組織的、計画的に進めていこうというものです。したがって、各学校においては、小学校・中学校・高等学校の各段階の課題とその系統性に留意しながら、自校における学習プログラムを作成することが必要です。

第1節 自校における「学習プログラムの枠組み」の作成

「調査研究報告書」では、「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）」^{※6}（以下、「学習プログラムの枠組み（例）」という。）を示しています。職業観・勤労観の育成にあたっては、それが児童生徒一人一人の職業的（進路）発達の全体を通して形成されるという視点に立ち、段階的・系統的に取り組むことが大切です。このため、「学習プログラムの枠組み（例）」では、職業的（進路）発達の全体を視野に入れ、職業観・勤労観の形成に関する4つの能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）を幅広く取り上げ、各学校段階（小学校については低学年、中学年、高学年に細分化）ごとに身に付けさせたい能力・態度を一般的な目安として具体的に示しています。また、同一能力の育成については、やさしいものからより高度なものへ、具体的なものから抽象的なものへ、自分中心から他者との関連重視へと、段階的・系統的に取り組むことができるよう構造化しています。

各学校においては、児童生徒の発達の状況を的確に把握し、「学習プログラムの枠組み（例）」に示された能力・態度をもとに、各学校の実情に応じた「自校の学習プログラムの枠組み」を作成することが必要です。その上で、これらの能力が相互に関係し合っていることや、一つの活動によって複数の能力の伸長が可能であることなどに留意し、4つの能力全体を、総合的に発達させることを目指して目標の設定と学習プログラムの立案をすることが大切です。

第2節 自校における目標の設定

自校におけるキャリア教育の目標設定にあたっては、学校全体の目標や各学年の目標を設定した上で、個々の学習や活動の目標を設定します。各学年の目標、及び個々の学習や活動の目標を設定する場合、自校の学習プログラムの枠組みに基づき、各発達段階における課題を達成するために、どのような能力・態度を育成し、児童生徒をどのように変容させていくのかなど、指導のねらいを明確にすることが大切であり、それをより具体的な行動目標として示すことが必要です。

また、学習プログラムの立案にあたっては、4つの能力の育成と同時に、児童生徒一人一人のこころの成長・発達をうながすという視点が不可欠であり、各学校段階において、どのよう

※6 職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）（参考資料2-③）

な意欲や態度を高めるのか、具体的な目標を設定することが必要です。

第3節 教育課程への位置づけと具体的な学習プログラム

自校における学習プログラムの立案にあたっては、児童生徒一人一人の理解に努め、その実態や地域の実情を考慮するとともに、各学校の教育計画全体を踏まえた上で、全体計画や各学年の計画、さらには個々の学習や活動の指導計画を立案し、具体的な実践につなげていきます。各学校におけるキャリア教育の目標を実現するためには、自校の学習プログラムの枠組みから明らかになった育成すべき能力・態度を、どのような学習や活動を通して育成するかを明確にし、関連する諸活動を各学校の教育課程に位置づけ、系統性をもって進める必要があります。

教育課程への位置づけは、4つの能力を、学習指導要領に示されている各教科（科目）、特別活動、道徳、総合的な学習の時間の4領域（高等学校は3領域）のねらい・内容・配慮事項のうち、キャリア教育に関連する事項（表2参照）と結びつけ、学習や活動を再構成して行います。

(1) 特別活動の学級（ホームルーム）活動、学校行事等への位置づけ

学習指導要領の中の、特別活動の学級（ホームルーム）活動における「学級内の組織づくりや仕事の分担処理などの活動」「個人及び社会の一員としての在り方（生き方）に関すること」「望ましい人間関係の育成（確立）」「将来の生き方と進路の適切な選択（決定）」などや、学校行事における「勤労生産・奉仕的行事やボランティア活動」などはキャリア教育を進める上で、重要な役割を担う活動であり、4つの能力で育成することが期待されている能力・態度とその多くが重なっています。したがって、キャリア教育の学習内容は、特別活動の学級（ホームルーム）活動や学校行事の中に、中核的な学習活動として位置づけることが可能であり、これまで実施してきた活動を改善、充実させることが大切です。

(2) 各教科（科目）、道徳及び総合的な学習の時間への位置づけ

4つの能力で育成することが期待されている能力・態度には、各教科（科目）、道徳、及び総合的な学習の時間における学習や活動に位置づけることが適切なものがあります。

職業に対する興味・関心は、各教科の学習に対する興味・関心に深く結びついていることから、各教科の学習のさまざまな場面で4つの能力を育成することができます。

また、道徳の内容の視点である「自分自身に関すること」「他の人とかかわりに関すること」「集団や社会とかかわりに関すること」の学習内容の多くは、4つの能力で育成することが期待されている能力・態度と関連しています。

総合的な学習の時間では、自己の生き方や進路を考えさせたり、ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、ものづくりや生産活動など、各学校が児童生徒の実態や地域の実情に応じて計画した、特色ある教育活動に位置づけて行うことができます。例えば、高等学校の学校設定教科に関する科目である「産業社会と人間」の学習は、キャリア教育の面で大きな成果を期

待できます。この学習の実践を参考に、キャリア教育を総合的な学習の時間における学習活動に位置づけることも考えられます。

(3) 年間を通した学習プログラム（例）

本報告書では、「4つの能力を中心とした学習プログラムの枠組み（例）」（表1）と、キャリア教育の目標及び教育課程に位置づける内容を示した「小学校・中学校・高等学校を通した学習プログラム」（表2）を、それぞれ各学校・各学年の段階に応じて系統立てて示しました。さらにそれらを踏まえた上で、各学校・各学年の段階における、年間を通した「学習プログラム（例）」（表3）を示しています。これは、現行の教育活動をキャリア教育の視点で整理したものであり、各学校において、自校の学習プログラムを系統的に作成し、計画的に実践していくための参考資料にいただきたいと思います。

表 1

4つの能力を中心とした学習プログラムの枠組み（例）

第3（～4）学年

- 自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする - リーダー・フォロアシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める	- 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する - 多様な勤労観・職業観を理解し、勤労・職業に対する理解・認識を深める	- 将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む - ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する	- 将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む - 理想と現実の葛藤経験等を通して、さまざまな困難を克服するスキルを身に付ける
---	--	---	---

第2学年

中学年

- 友達と仲良く遊び、助け合う - 友達との考えや気持ちを理解しようとする - 自分の生活を支えてくれる人に感謝する - 友達と協力し合って活動する - 自分の意見を分かりやすく伝える	- 分からないことを質問したり、自分で調べたりする - いろいろな職業や生き方があることが分かる - 係や当番活動に進んで取り組む - 働くことや学ぶことの大切さが分かる	- 互いの役割や役割分担の必要性が分かる - 毎日の生活や学習が将来の生き方に結びつくことが分かる - 将来の夢や希望を持つ - 学習などの計画を立てたり、その手順が分かる	- 自分のやりたいこと、よいと思うことに進んで取り組む - 自分の仕事や役割を最後までやり通そうとする - 目標達成や課題解決に向けて努力する - 自分のよいところを伸ばそうとする
--	--	---	---

低学年

- 友達と仲良く遊び、助け合う - お世話になった人などに感謝し、親切にする - 友達との考えを聞く - 自分の考えをみんなの前で話す	- 分からないことを周りの人に聞いて調べる - 身近で働く人々に興味・関心を持つ - 係や当番活動を忘れずにやり、その大切さが分かる	- 家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる - 作業の準備や後片づけをする - 決められた時間やきまりを守るうとする	- 自分の好きなものや大切なものを持つ - 学校の中には、きまりがあることが分かる - 自分のことは自分で決め、自分でやろうとする
人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力

4つの能力を中心とした学習プログラムの枠組み (例)

第3(～4)学年

・自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする ・リーダー・フォロア・シップを築いて、相手の能力を引き出し、チームワークを高める	・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多角的に情報を集め検討する ・多様な勤労観・職業観を理解し、勤労・職業に対する理解・認識を深める	・将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む ・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する	・将来設計、進路希望の実現を目指すして、課題を設定し、その解決に取り組む ・理想と現実の葛藤経験等を通して、さまざまな困難を克服するスキルを身に付ける
---	--	---	--

高等学校段階

第2学年

・自己の思いや意見を適切に伝えるとともに、他者の意思や価値観等を的確に理解する ・異年齢や異性等多様な他者と場に応じて適切なコミュニケーションを図る	・職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる ・社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する	・生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える ・職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する	・選択の基準となる自分なりの価値観・勤労観・職業観を持つ ・自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する
---	--	---	---

第1学年

・新しい環境や人間関係を生かす ・互いに支え、分り合える友人を得る	・調べたことなどに自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する ・職業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験をする	・将来の生き方を考え、今取り組むべき学習や活動を理解する ・学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的な役割を果たす	・自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する ・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する
--	---	---	---

第3学年

・自分の悩みを話せる人を持つ ・リーダー・フォロア・の立場を理解し、チームを組んで互いに支え合っているがら仕事をする	・上級学校の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる ・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する	・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる ・将来の進路希望に基づいて当面の計画を立て、その達成に向けて努力する	・教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくようとする
---	---	---	---

中学校段階

第2学年

・自分のよさや個性が分り、他者のよさや感情を理解し、尊重する ・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする	・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる	・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える ・進路計画を立てる意義や方法を理解し自分の目指すべき将来を暫定的に計画する	・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする ・学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする
--	--	---	---

第1学年

・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる ・新しい環境や人間関係に適応しながら、人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルを基礎を習得する	・産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する ・係・委員会活動に積極的に取り組み、得たコミュニケーションの基礎を生かす	・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する ・将来の夢や職業を思い描き、自分にあわせて職業や仕事への関心・意欲を高める	・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する ・よりよい生活や学習・進路や生き方等を目指して自ら課題を見出し、いくことの大切さを理解する
--	---	---	---

高学年

・自分の長所や短所に気づき、自分らしさを大切にしよう ・自分と異なる意見も理解しようとする ・思いやりや気持ちは持って行動する ・縦割り班等の活動で、自分の役割に責任を持つ	・課題を解決するために必要な情報を探す ・気付いたこと分かったことなどをまとめる ・職場見学等を通して働くことの大切さが分かる ・学んだり体験したりしたことと、生活や働くこととの関連を考える	・社会生活にはいろいろな役割がある ・将来のことやその大切さが分かる ・憧れとする職業を持つ ・計画的・継続的に学習する	・係や委員会活動に進んで取り組み、責任を果たそうとする ・自ら課題を見つけて、自分の力で解決しようとする ・自分のよさを進んで伸ばそうと努力する
---	--	---	--

小学校段階

中学年

・友達の良いところを認めたり、友達の良い考えや気持ちを理解しようとする ・自分の生活を支えている人に感謝する ・友達と協力し合って活動する ・自分の意見や気持ちを分かりやすく伝える	・分らないことを質問したり、自分で調べたりする ・いろいろな職業や生き方があることが分かる ・係や当番活動に進んで取り組む ・働くことや学ぶことの大切さが分かる	・互いの役割や役割分担の必要性が分かる ・毎日の生活や学習が将来の生き方に結びつくことが分かる ・将来の夢や希望を持つ ・学習などの計画を立てたり、その手順が分かる	・自分のやりたいこと、よいと思うことに進んで取り組む ・自分の仕事や役割を最後までやり通そうとする ・目標達成や課題解決に向けて努力する ・自分のよいところを伸ばそうとする
---	---	---	---

低学年

・友達と仲良く遊び、助け合おう ・お世話になった人などに感謝し親切にする ・友達の考えを聞く ・自分の考えをみんなの前で話す	・分らないことを周りの人に聞いて調べる ・身近で働く人々に興味・関心を持つ ・係や当番活動を忘れずにやり、その大切さが分かる	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる ・作業の準備や後片づけをする ・決められた時間やきまりを守るようとする	・自分の好きなものや大切なものを持つ ・学校の中には、きまりがあることが分かる ・自分のことは自分で決め、自分で行おうとする
---	--	---	--

人間関係形成能力

情報活用能力

将来設計能力

意思決定能力

小学校・中学校・高等学校を通じた学習プログラム

自己実現
企業・高等教育機関等におけるキャリア教育

学校におけるキャリア教育

自分がかつて努力しようとする意欲・態度の向上

第3(～4)学年
夢を持つ

中学年
他者に協力し、
自分の役割を責任
をもって果たす

低学年
他者とかかわり
ながら、自分
身や自分の生活
について考える

家庭や幼児教育機関

教育課程への位置づけ

学習指導要領におけるキャリア教育関連事項		山形県の教育施策
特別活動 ・希望や目標をもつこと、夢や理想をもち、夢や理想を実現するための活動 【児童会活動】 ・学校生活の充実と向上のための活動 【学校行事】 ・勤労生産・奉仕活動やボランティア活動など 道徳 ・働くことの大切さを知り、進んで働くこと ・働くことの意義を理解し、社会に貢献する喜びを知って公共のために役立つことをすること 総合的な学習の時間 ・学び方やものの考え方の探究、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を身に付け、自己の生き方を考えること ・ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習 各教科 ・生活科や家庭科における家庭での仕事の理解と役割分担に関する学習 ・社会科における地域の人の生産や販売、我が国の産業について調査・見学や資料を活用した調べ学習など ・学習課題や活動の選択、自らの将来について考えたりする機会の設定	・キャリア教育の推進、夢や理想を実現するための活動 ・希望や目標をもつこと、夢や理想をもち、夢や理想を実現するための活動 【児童会活動】 ・学校生活の充実と向上のための活動 【学校行事】 ・勤労生産・奉仕活動やボランティア活動など 道徳 ・働くことの大切さを知り、進んで働くこと ・働くことの意義を理解し、社会に貢献する喜びを知って公共のために役立つことをすること 総合的な学習の時間 ・学び方やものの考え方の探究、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を身に付け、自己の生き方を考えること ・ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習 各教科 ・生活科や家庭科における家庭での仕事の理解と役割分担に関する学習 ・社会科における地域の人の生産や販売、我が国の産業について調査・見学や資料を活用した調べ学習など ・学習課題や活動の選択、自らの将来について考えたりする機会の設定	・キャリア教育の推進、夢や理想を実現するための活動 ・希望や目標をもつこと、夢や理想をもち、夢や理想を実現するための活動 【児童会活動】 ・学校生活の充実と向上のための活動 【学校行事】 ・勤労生産・奉仕活動やボランティア活動など 道徳 ・働くことの大切さを知り、進んで働くこと ・働くことの意義を理解し、社会に貢献する喜びを知って公共のために役立つことをすること 総合的な学習の時間 ・学び方やものの考え方の探究、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を身に付け、自己の生き方を考えること ・ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習 各教科 ・生活科や家庭科における家庭での仕事の理解と役割分担に関する学習 ・社会科における地域の人の生産や販売、我が国の産業について調査・見学や資料を活用した調べ学習など ・学習課題や活動の選択、自らの将来について考えたりする機会の設定

③ 異世代とのコミュニケーション能力を高めること

④ 社会規範やマナーを体得すること

中学校における職場体験学習のねらい

① 働くことの意義を知ること

② 自分の生き方や進路選択の在り方を考えること

③ 人間関係の大切さに気付くこと

④ 社会生活のマナーやルールを学ぶこと

小学校における社会見学・地域見学や体験活動のねらい

① 働くことの大切さが分かること

② 社会では、さまざまな人が役割を持って働いていることが分かり、日常生活との関連を考

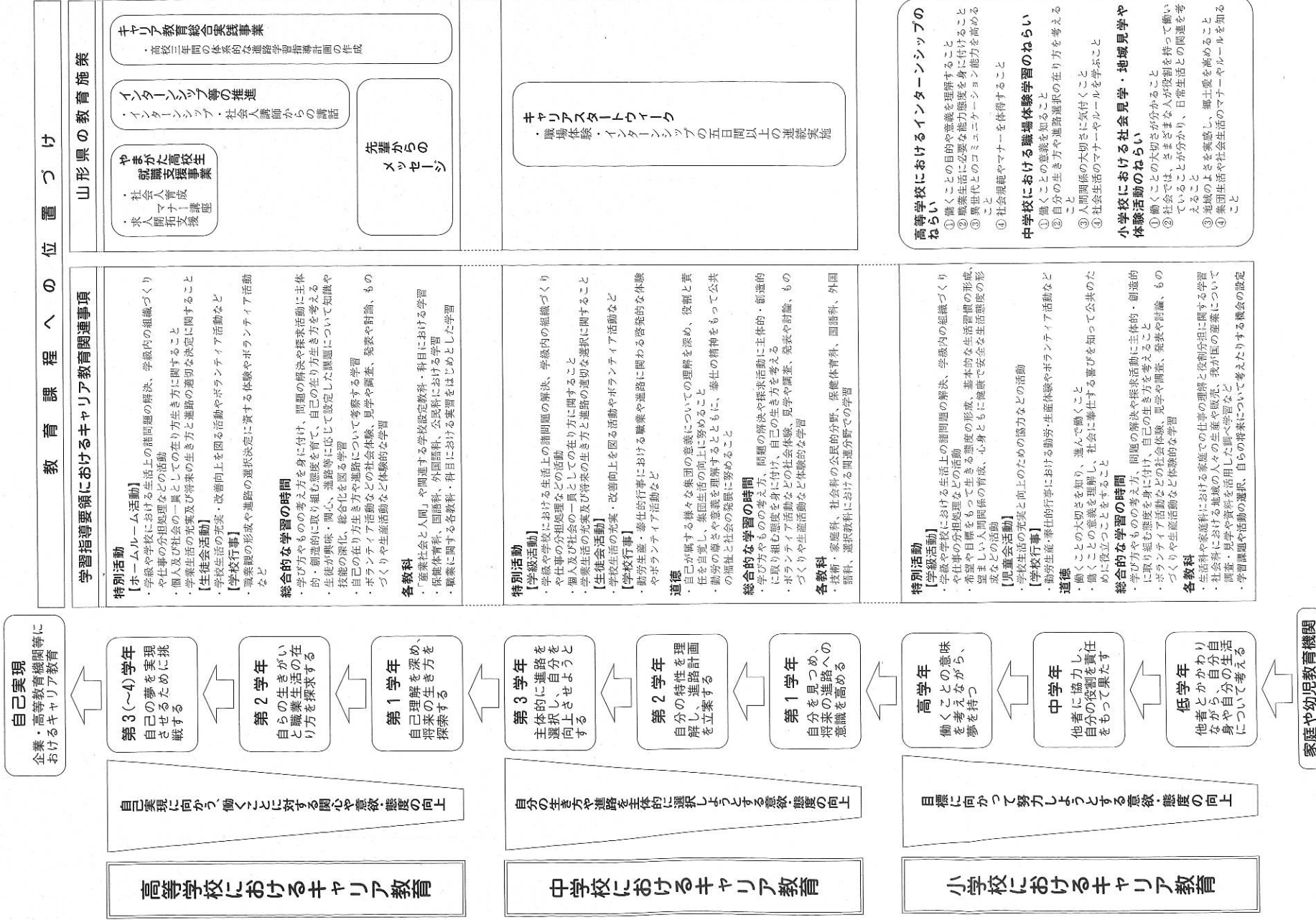
えること

③ 地域のよさを実感し、郷土愛を高めること

④ 集団生活や社会生活のマナーやルールを知る

表 2

小学校・中学校・高等学校を通じた学習プログラム



家庭や幼児教育機関

学習プログラム (例)

表 3

小学校 第1学年 学習プログラム (例)

表3-1

◎小学校目標 目標に向かって努力しようとする意欲や態度の向上
○低学年目標 他者とかわりながら、自分自身や自分の生活について考える

(職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力)

- ①人間関係形成能力 ○お世話になった人などに感謝し親切にする ○友だちの考えをみんなの前で話す
- ②情報活用能力 ○分からないことを周りの人に聞いて調べる ○身近で働く人々に興味、関心を持つ ○係や当番活動忘れずにやり、その大切さが分かる
- ③将来設計能力 ○家の手伝いや頼り当てられた仕事、役割の必要性が分かる ○作業の準備や後かたづけをする ○決められた時間やきまりを守るとうとする
- ④意思決定能力 ○自分の好きなものや大切なものを持つ ○学校の中には、きまりがあることが分かる ○自分のことは自分で決め、自分でおうとする

※表内の①～④は職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力を示す。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
児童 校会 行事	入学式 ①④ 始業式 ④	楽しい校外学習 ①②③④		終業式 ④	始業式 ④	運動会①②④	児童集会 ①②④	文化祭 ①②③④	終業式 ④	始業式 ④	感謝の会①②	卒業式 ①②③④
学級 活動	1ねんせいに なつて①②④ がつこうのき まり④	れんきゅうの つかいかた②④ さいがいそ なえて①②④ かかきを いさえり あんぜん②④	つゆのすこし かた④ プールのつか いかた②③④ いでのこと ②③	なつやすみの せいかつ ①②④ 1がつきき りかえつ ①②④	2がつきかん ばること①④ あんぜんなげ こう②④ きもちのよいあ いさつ①②④	かかきをきめ よう②④ たのしいうん どうかいに けつ①②③④ きもちのよいあ いさつ①②④	ともだちとな かよく① おこのこ、 おんなのこ① ①②③④	あんぜんな うけこう②④ ①②③④	きょうしつを きれいにしよう ②③ 2がつきかん かえつて①②④ ふゆやすみの せいかつ④	きもちのよい あいさつ ①②④ 3がつきかん ばること①④ ゆきからのあ いさつ②④	みんなのゆめ つてなあと ①④ おとうさんお かめさん①③ あいがとう6ねん せい①②③④	1ねんかんを ふりかえつて ①②④ きょうしつを きれいにしよう ②③ あいがとう6ねん せい①②③④
道徳	この4-③① いであ やくそくをまも ってあそぼう 4-①③④	わがまま 1-①④ やくそくをまも ってあそぼう 4-①③④	しぜんもののち 3-②④ わたしたちの まはら4-④② がつこうはす てきなこと 4-③④①	うつくしいと かんじられるこ ろをみつけよう 3-③④① あたたかいこ ころをとけ よう2-②①④	おかあさんお めどう 4-②③ うつくしいと かんじられるこ ろをみつけよう 3-③④① あたたかいこ ころをとけ よう2-②①④	ゆうきをだて 1-③④① みんながもち よく4-①③④ ともだちといっ しょ2-③①④	うそなんかつ くもかんが 3-②④① 生きているこ ろをみつけよう 1-②③④	よいこととわ るいこと 1-③④① がばってね! 1-②③④	いのちをな いせつにすこ ころ3-②④① うつくしいと かんじられるこ ころをみつけ よう2-③④①	おもしろい こと2-②①④ ともだちといっ しょ2-③④① あいがとうを しるこころで 3-①④①	こころのこも たあいつを 2-①①④ どうぶつにや さいこころで 3-①④①	あいがとう、 6ねんせい 2-④①④ かぞくがすき 4-②③④
教科	国語・事柄の順序や場面を考えながら話し合おうとした り、楽しんで表現したりする態度を育てる 算数・具体物を用いた活動などを通して、数、量、図形 等についての感覚を育てる 生活：身近な人々、社会及び自然に関する活動を通し て、集団や社会の一員として適切な行動がとれ る力や、気付いたことや楽しかったことなどを 言葉などにより表現できる力を育てる 音楽：楽しい音楽活動を通して、音楽に対する興味・ 関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく 楽しいものにする態度と習慣を育てる 図画工作：豊かな発想をもとに、表したいこと、つくりたい ものを自分の表現方法でつくりだす喜びを味わ うようにする 体育：基本の運動及びゲームを積極なまきまりや活動工夫し て、楽しく、だれでも仲間よく、健康・安全に留意し て運動する態度を育てる											

小学校 第3学年 学習プログラム (例)

表3-2

◎小学校目標 目標に向かって努力しようとする意欲や態度の向上
○中学年目標 他者と協力し、責任をもって、自分の役割を果たす

(職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力)

- ①人間関係形成能力 ○友達のをきき、友達の考えや気持ちや気持ちを分かちあう ○自分の生活を支えている人に感謝する ○友達と協力し合って活動する ○自分の意見や気持ちを分かちあう(伝える)
- ②情報活用能力 ○分からないことを質問したり、自分で調べたりする ○いろいろな職業や生き方が分かることが分かる ○係や当番活動に選んで取り組む ○働くことや学ぶことの大切さが分かる
- ③将来設計能力 ○互いの役割や役割分担の必要性が分かる ○毎日の生活や学習が将来の生き方に結びつくことが分かる ○将来の夢や希望を持つ ○学習などの計画を立てたり、その手順が分かる
- ④意思決定能力 ○自分のやりたいこと、よいと思うことに進んで取り組む ○自分の仕事や役割を最後までやり通そうとする ○目標達成や課題解決に向けて努力する ○自分のよいことを伸ばそうとする

※表内の①～④は職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力を示す。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 校 会 行 事	始業式 ④ 入学式 ①④	1年生を迎え る会②④ 社会科見学 ①②③④		終業式 ④	始業式 ④	運動会①②④	児童集会 ①②④	文化祭 ①②③④	終業式 ④	始業式 ④	感謝の会 ①②④	卒業式 ①②③④
学 級 活 動	3年生になつて ①②③④ 1年生と仲良 く①②④ 社会科見學に 向けて①②③④	1年生と仲良 く①②④ 社会科見學に 向けて①②③④	みんなでする命 3-②①④ 3-②①④	1学期の振り返 りとき の計画①②④	運動会に向けて ①②④ 文化祭に向けて ①②③④	運動会に向けて ①②④ 文化祭に向けて ①②③④	くじけない心 1-③①②④ 1-①①③	計画的に行動 する 1-①①③	運動会に向けて ①②④ 文化祭に向けて ①②③④	2学期の振り返 りとき の計画①②④	今年の抱負 ①②③④ 会に向けて ①②④	卒業式に向け て①②③④
道 徳	めあてに向か 1-③①③④	ほんとうの友達 2-③①④④ 2-③①④④	みんなが等 3-②①④④ 3-②①④④	働くことの大切 さ 4-②①④④ ①②③④④	人のために 4-②①②④④ 4-③①④④	くじけない心 1-③①②④④ 1-①①③④④	運動会に向けて ①②④④ 文化祭に向けて ①②③④④	計画的に行動 する 1-①①③④④	運動会に向けて ①②④④ 文化祭に向けて ①②③④④	2学期の振り返 りとき の計画①②④④	今年の抱負 ①②③④④ 会に向けて ①②④④	卒業式に向け て①②③④④
総合的な学習の時間	『夏の活動』（・音楽・サツマイモ）①②③④④ ・活動計画・作業・収穫・収穫祭											
教 科	『春フェスタ』（山菜採り等）①②④④ ・活動計画・学習発表											
	『秋フェスタ』（伝統的な行事や遊び体験）①②④④ ・活動計画・学習発表											
『冬フェスタ』（発表会）①②④④ ・活動計画・学習発表												
教	国語：調べたことなどについて話し合おうとする態度を育てる 社会：地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解し、地域社会の一員としての自覚をもつようにする 算数：四則の基本的な計算や資料の数理的な処理の仕方について理解を深め、適切に用いる能力を伸ばす											
科	理科：目通しをもって観察、実験などを行い、見出しな問題を興味・関心をもつて比較しながら追究する活動を通して、理科の学習内容に対する見方や考え方を養う 音楽：音楽表現の楽しさや音楽の美しさを感じとって表現したり、思いやりをもつて活動を通して、音楽活動への意欲を高める											
図画工作：豊かな発想や創造的な技能などを働かせ、その体験を深めることに関心をもちつとともに、進んで表現する態度を育てようとする 体育：各種の運動の課題をもと、活動の工夫して運動を楽しむ活動を通して、その特性に応じた技能を身に付け、体力を養う												

中学校 第2学年 学習プログラム (例)

表3-5

◎中学校目標 自分の生き方や進路を主体的に選択しようとする意欲・態度の向上

○第2学年目標 自分の特性を理解し、進路計画を立案する

(職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力)

- ①人間関係形成能力 ○自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し尊重する ○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする
- ②情報活用能力 ○生き方や進路に関する情報を様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する ○体験等を通して、勤務の意義や働く人々の様々な思いが分かる
- ③将来設計能力 ○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える ○進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する
- ④意思決定能力 ○自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする ○学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする

※表内の○数字は、職業的 (進路) 発達をうながすために育成する主な諸能力を示す。なお、総合的な学習の時間においては①～④の諸能力がバランスよく育成されるように配慮する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学生 校生活 行事 活動	入学式 ① ④ 始業式		地区総合体育 大会 ④	終業式 ④ 県総合体育大会 ④	夏季休業 ③ 始業式 ④	運動会 ① ④	文化祭 ③		終業式 ④ 年末年始休業 ③	始業式 ④	送る会 ①	卒業式 ① 修了式 ④ 年度末休業 ③	
学級 活動	・2年生としての抱負 ① ④ ・私たちの学級をつくる ② ④	・人はなぜ学ぶのか ② ・人はなぜ働くのか ②	・行事への積極的な参加 ① ・心と体の健康 ④	・1学期の反省と夏休みの計画 ③ ⑤	・学級の生活を直そう ① ④	・職業とは何だろう ② ・職業に就くためには ③	・自分の個性を生かそう ④ ・異性の理解 ①	・ボランティア活動とは ① ・充実した学習 ②	・上級学校について知ろう ② ・2学期を振り返ろう ③	・自分の力を高めていこう ④ ・自分の適性を立てよう ③	・適性をいかす ③ ・進路計画を立てよう ③	・1年の成長を振り返る ② ・3年生への心がまえ ③	
道徳	・理想の表現 1-(4)③ ・役割の自覚 4-(1)③	・強い意志 1-(2)④ ・役割の自覚 4-(1)③	・礼儀 2-(1)① ・思いやり 2-(2)①	・生きる喜び 3-(3)③ ・広い心 2-(5)①	・勤労・奉仕 4-(5)②	・生きる喜び 3-(3)③	・友情 2-(3)①	・公共の福祉 4-(5)②	・自主自律 1-(3)① ・思いやり 2-(2)①	・個性の伸長 1-(5)①	・異性の理解 2-(4)①	・社会の一面としての自己 4-(8)②	
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会
総合的な学習の時間	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のまとめ ・発表会 講話：地域の方に学ぶ マナー講習会	オリエンテーション ・企業訪問に向けて1 ・意義と取り組み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確認 ・自主研修の行程調整 ・

中学校 第3学年 学習プログラム (例)

表3-6

◎中学校目標 自分の生き方や進路を主体的に選択しようとする意欲・態度の向上

○第3学年目標 主体的に進路を選択し、自分を向上させようとする

(職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力)

- ①人間関係形成能力 ○自分の悩みを話せる人を持つ ○リーダーとそれを支える人の立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をやる
- ②情報活用能力 ○上級学校の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習の概要が分かる ○将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性を理解する
- ③将来設計能力 ○自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる ○卒業の進路希望に基づいて当面の計画を立て、その達成に向けて努力する
- ④意思決定能力 ○教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる ○課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする

※表内の○数字は、職業的 (進路) 発達をうながすために育成する主な諸能力を示す。なお、総合的な学習の時間においては①～④の諸能力がバランスよく育成されるように配慮する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学生 校生活 行事 活動	入学式 ① ④ 始業式		地区総合体育 大会 ④	終業式 ④ 県総合体育大会 ④	夏季休業 ③ 始業式 ④	運動会 ③ ④	文化祭 ①		終業式 ④ 年末年始休業 ③	始業式 ④	送る会 ①	卒業式 ① 修了式 ④ 年度末休業 ③		
学級 活動	・3年生としての 抱負 ① ④ ・私たちの学級 をつくる ② ③	・自ら学ぶとい うこと ② ・リーダーとし て ③ ④	・行事への積極 的な参加 ① ・自分の生き方 とは ③ ④	・1学期の反省 と夏休みの計 画 ③ ⑤	・よりよい学習 方法 ② ④	・進路選択の指 針 ② ④ ・進路選択の条 件 ① ④ ・上級学校体験 ① ④ ・社会人として の自分 ③ ④	・進路選択とは ④ ⑤ ・社会人として の自分 ③ ④	・自分を多角的 に理解する ① ④ ・不得意教科の 克服 ② ④	・進路の選択 ④ ⑤ ・自分を知ら せてもらう ① ④	・将来への決意 ④ ⑤ ・受験にあ たって ② ④	・私の中学時代 ② ④ ・卒業に向 けて ① ④	・感謝を込 めて ① ④ ・将来への 展望 ③ ④		
道徳	・理想の実現 1-(4)③ ・役割の自覚 4-(1)③	・強い意志 1-(2)④ ・役割の自覚 4-(1)③	・礼儀 2-(1)① ・役割の自覚 4-(1)③	・生きる喜び 3-(3)③ ・広い心 2-(5)①	・勤労・奉仕 4-(5)②	・社会の一員と しての自覚 4-(8)②	・生きる喜び 3-(3)③ ・思いやり 2-(2)①	・自主自律 1-(3)① ・思いやり 2-(2)①	・思いやり 2-(2)① ・思いやり 2-(2)①	・理想の実現 1-(4)③ ・個性の伸長 1-(5)①	・異性の理解 2-(4)① ・個性の伸長 1-(5)①	・よりよい社会 の実現 4-(3)②		
総合的な 学習の時間	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	
総合的な 学習の時間	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	オリエンテーショ ン ・企業訪問に向け て1 ・意義と取り組 み方 ・面会の約束 ・事前訪問の確 認 ・自主研修の行 程調整 ・企業訪問 ・お礼状の作成 ・職場体験のま とめ ・発表会 講話：地域の方 に学ぶ マナー講習会	
教科	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める	国語：目的意識や相手意識を高め、聞く・話す・読む・書く力を高める 社会：課題づくり・調べ方・まとめ方・発表の仕方などを活用し社会的な事象をとらえる力を身に付ける 数学：数学的な事象に興味を持ち、統計的な処理能力を高める

高等学校 第1学年 学習プログラム (例)

表3-7

○高等学校目標 自己実現に向けて、働くことに対する意欲や態度を向上させる

○第1学年目標 自己理解を深め、将来の生き方を探索する

(職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力)

①人間関係形成能力 ○新しい環境や人間関係を築く ○互いに支え、分り合える友人を得る)

②情報活用能力 ○調べたことなどを自分の考えを交え発表・発信する ○就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む)

③将来設計能力 ○将来の生き方を考え、今取り組むべき学習や活動を理解する ○学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす)

④意思決定能力 ○自分を生かし役割を果たしていく上でのさまざまな課題とその解決策について検討する ○進路希望を表明するための諸条件や問題を整理し、実現可能性について検討する)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学生・生徒・校務活動	入学式 始業式 進路希望調査 進路適性検査③	創立記念式典 講演会 保護者進路説明会	個人面談③④	体育祭 三者面談③④	夏季休業 始業式	進路希望調査 学校祭	地域清掃ボランティア①③	生徒総会	2年次のコース決定 終業式 年末年始休業	始業式 進路希望調査③④		卒業式 修了式 春季休業
ホームルーム活動	自己紹介(スピーチ) ・新しい人間関係の中で自己を表現し、仲間と理解する ・将来の夢(作文) ・志望大学の目標を明確にし、将来の進路や志望について考える	学習の意義 ・人はなぜ学ぶのか、学習の意義について話し合い、自分の考えを深める	夏休みの生活について(学習計画表の作成) ・これまでの学習や生活を振り返り、2年生活に備え、目標を設定する ・進路適性検査の分析 ・自己の特性や得意分野などを理解する	学校の生活に向けた活動 ・自分の仕事の役割と役割を自覚し、責任を果たす	上級学校調べ(グループ活動・発表) ・上級学校の種類とそれぞれの特徴について調べ、その違いを理解する	生徒総会に向けて(討論) ・学校生活の充実・改善について話し合う			年末年始の生活について(学習計画表の作成) ・これまでの学習や生活を振り返り、2年生活に備え、目標を設定する ・個人面談 ・課題を振り返り、2年生に向けた学習や活動について主体的に考える	「自分」を知る(自己史の作成・発表) ・これまでの成長の歩みを振り返り、将来の自分を考える。	春休みの生活について(学習計画表の作成) ・これまでの学習や生活を振り返り、3年生に向けた学習や活動について主体的に考える	
総合的な学習の時間	卒業生に学ぶ(講話) ・先輩の進路決定プロセスに学ぶことにも、自己の進路決定に活かす	働くことの意義(討論) ・働くこと、その意義について話し合い、自分の考えを深める	職業について知る(調査・発表)②③ ・職業の現状と仕事の内容、必要な免許・資格などについて調べる	職業人インタビュー(体験・発表)②	福祉施設訪問(体験) ・ボランティア活動を通して、勤労の尊厳を認識する	ライフルプランの立案(発表) ②③④ ・将来の生き方を考える ・課題を明らかにし、今取り組むべき学習や活動を理解する ・明確な進路目標を持つ						

※ 表内の①～④は職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力を示す。

高等学校 第2学年 学習プログラム (例)

表3-8

○高等学校目標 自己実現に向けて、働くことに対する意欲や態度を向上させる

○第2学年目標 自らの生きがいと職業生活の在り方を探索する

(職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力)

①人間関係形成能力 ○自己の思いや意見を適切に伝えるとともに、他者の意志や価値観等を的確に理解する ○異年齢や異性等多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る)

②情報活用能力 ○職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる ○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する)

③将来設計能力 ○生きがいややりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える ○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し進路学習を立案する)

④意思決定能力 ○選択の基準となる自分なりの価値観、勤務観、労働観、職業観を持つ ○自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学生・生徒・校務活動	入学式 始業式 進路希望調査 進路適性検査③	創立記念式典 講演会 保護者進路説明会	個人面談③④ 三者面談③④	体育祭 終業式 三者面談③④	夏季休業 始業式	進路希望調査 学校祭	地域清掃ボランティア①③	生徒総会	職業適性検査③④ 終業式 年末年始休業	始業式 進路希望調査③④		卒業式 修了式 春季休業
ホームルーム活動	自己紹介(スピーチ) ・これまでの学習や生活状況を振り返り、2年生に向けた学習目標や進路目標を設定する	夏休みの生活について(学習計画表の作成) ・これまでの学習や生活を振り返り、3年生に向けた学習や活動について主体的に考える	進路適性検査の分析 ・自己の特性や得意分野などを理解する	学校の生活に向けた活動 ・自分の仕事の役割と役割を自覚し、責任を果たす	修学旅行(事前学習) ・見学、研修場所について事前に調べ、修学旅行の意義や役割を理解する	生徒総会に向けて(討論) ・学校生活の充実・改善について話し合う		修学旅行を通して見聞を広め、人間性を身に付ける	職業適性検査③④ 終業式 年末年始休業		春休みの生活について(学習計画表の作成) ・これまでの学習や生活を振り返り、3年生に向けた学習や活動について主体的に考える	
総合的な学習の時間	社会人講師からの講話 ・社会人としての責務や能力について理解する	進路について② ・大学や短大、専門学校の違いについて調べ、卒業後の進路や職業について理解する	インターンシップの計画 ・インターンシップについて調べ、卒業後の進路や職業について理解する	インターンシップの計画 ・インターンシップについて調べ、卒業後の進路や職業について理解する	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④	職業適性検査③④ 終業式 三者面談③④

※ 表内の①～④は職業的 (進路) 発達をうながすために育成する諸能力を示す。

高等学校 第3(～4)学年 学習プログラム (例)

表3-9

◎高等学校目標 自己実現に向けて、働くことに対する意欲や態度を向上させる

○第3(～4)学年目標 自己の夢を実現させるために挑戦する

(職業的(進路)発達をうながすために育成する諸能力)

- ①人間関係形成能力 ○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする ○リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める
- ②情報活用能力 ○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する ○多様な労働・職業観を理解し、労働・職業に対する理解・認識を深める
- ③将来設計能力 ○将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む ○ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する
- ④意思決定能力 ○将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む ○理想と現実の葛藤経験等を通して様々な困難を克服するスキルを身に付ける

※ 表内の①～④は職業的(進路)発達をうながすために育成する諸能力を示す。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式 ① 始業式 ④ 進路希望調査 ③④	① 創立記念式典 ④ 講演会 ③ 保護者進路説明会 ③④ 個人面談③④	① 個人面談③④	③④ 個人面談③④	体育祭 ④ 終業式 ④ 三者面談③④	夏季休業 ④ 始業式 ④	学校祭 ①	地域清掃ボランティア①③	生徒総会 ③	三者面談③④ 終業式 ④ 年末年始休業	始業式 ④		卒業式 ④
学生生活 学校行事 行事	① 入学式 ④ 始業式 ④ 進路希望調査 ③④	① 創立記念式典 ④ 講演会 ③ 保護者進路説明会 ③④ 個人面談③④	③④ 個人面談③④	体育祭 ④ 終業式 ④ 三者面談③④	夏季休業 ④ 始業式 ④	学校祭 ①	地域清掃ボランティア①③	生徒総会 ③	三者面談③④ 終業式 ④ 年末年始休業	始業式 ④		卒業式 ④
ホームルーム活動	自己紹介(スピーチ) ① ガイダンス ③ 進路希望発表 ④ 進路希望発表 ④ 進路希望発表 ④ 進路希望発表 ④			夏休みの生活について(学習計画の作成) ③ これまでに学習や生活の振り返り、目標を設定する	事前活動(収束) ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 ㏟ 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭							

度を、どのように身につけさせようとしているか。

- ② 中学校 ○ 自己理解を深め、自己有用感を得るとともに、他者（学校内外の人）との豊かな人間関係をどのように築かせようとしているか。
- 職場体験学習や上級学校調べ等を通して、働くことや学ぶことの意義をどのように知らせようとしているか。
- ③ 高等学校 ○ 自己理解を一層深め、自己の能力や適性を理解し伸長させるとともに、他者との交流を通して多様な価値観を知らせ、どのように自己の変容を図ろうとしているか。
- インターンシップやオープンキャンパス参加等の体験活動を通して自己の生き方を見つめ直し、働くことや学ぶことの意義を再確認し、どのように自己の進路を選択できるようにしているか。

第2節 白鷹町におけるキャリア教育の取り組みについて

白鷹町は平成16年度から18年度までの3年間、文部科学省によるキャリア教育推進地域指定を受け研究に取り組みました。その成果として、小学校3校、中学校1校、高等学校1校の実践例を紹介しますが、各校共通の研究推進全体構想の概要は次の通りです。

＜研究推進全体構想＞

研究主題 郷土を愛し、志高く、誇り薫る白鷹人の育成
～いろいろばた的教育（いつくしみ、共に生きる）をとおして～

めざす姿（評価指標）		
児童生徒像	家庭像	地域像
1 夢や希望の実現に向け、学び、努力する児童生徒	1 家族が語り合える時間と場を持った家庭	1 公民館活動や老人クラブ、独自の活動組織等において、児童生徒と共に活動できる地域
2 自分を見つめ、よさや今後すべき事が言える児童生徒	2 仕事や役割を相互に理解し、家庭内でも役割を担い合う家庭	2 大人が見守り、子どもの居場所がある地域
3 適切な社会規範やマナーを身に付け、他と関わりながら社会的責任を果たせる児童生徒	3 社会規範や善悪の判断基準等を、明確に示す家庭	3 職場を開放し、体験をとおして次世代の育成に努める地域

研究の重点（内容）

- 1 組織的・系統的なキャリア教育を推進するための、小・中・高における指導方法や内容の開発（期待される具体的な能力・態度の到達目標、学習プログラム、教育課程 等）
- 2 現実を学び、適切な勤労観や職業観を育むためのキャリア・アドバイザー確保と活用（教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における活用 等）
- 3 関係機関等の連携による職場体験活動推進（学校と事務所・経済団体等との連携体制の構築、学校・家庭・PTA団体等との連携体制の構築、公的機関等における受け入れ態勢の構築）
- 4 キャリア教育推進における計画・実行・評価・改善のサイクル確立と、キャリア教育の必要性についての保護者や地域への啓発（評価指標の作成、広報活動 等）

第3節 実践事例

1 小学校

(1) 白鷹町立蚕桑小学校

1 キャリア教育の視点から見た学校の現状

本校学区は白鷹町南部の山沿いの農村地域である。昔は養蚕業が盛んであったが現在は数軒ほどしかなくなってしまった。しかし、その伝統的な産業は地域では今もって大切に思われている。また、本地域は大変まとまりがあり、地域行事や子供会行事も子どもから大人まで一緒になって取り組み、その中で子どもたちものびのび育っている。

本校の児童数は男子96名、女子97名、計193名である。1年から6年まで各学年1学級、そして特殊学級1つの計7学級である。

平成16年度より町全体でキャリア教育推進地域の指定を受け、その中で本校でも子どもたちの職業意識について調査を行った。平成16年度の5年生児童を対象に調査を行った。質問内容は「どんな職業につきたいか。」「その理由は何か。」である。

その結果、つきたい職業を「自然と科学」「アートと表現」「スポーツと遊び」「生活と社会」の4つに分類して整理した。（分類は村上龍『13歳のハローワーク』（幻冬舎）による）その結果、次のようであった。

「自然と科学」	11%	医者1 看護師1 獣医2
「アートと表現」	40%	芸人5 歌手4 漫画家1 アナウンサー2 映画助監督1 絵描き2
「スポーツと遊び」	19%	K1選手1 サッカー選手1 野球選手4 バレーボール選手1
「生活と社会」	30%	建築士1 消防士1 パティシエ1 デザイナー1 保育士5 弁護士1 銀行員1

また、職業選択の理由としては、次のような傾向が見られた。

- もうかるか、もうからないかが価値基準になっている。（特に男子）
- 流行の影響を受けている。（芸人などのお笑いブーム）
- 夢実現のための具体策などはまだ考えていない。（漠然としたあこがれ）
- 人を助けたいという理由も見られる。

以上の点から、職業に関する意識は、子どものあこがれからくるものであり、漠然としたものであった。

2 つけたい力

以上のような実態をふまえ、平成17年度と18年度のキャリア教育の目標を次の3つとして取り組んでいくことにした。

- (1) 夢や希望の実現に向け、学び・努力する児童を育てる。（将来設計）（情報活用）（意思決定）
- (2) 自分をみつめ、自分の良さや今後すべきことが言える児童を育てる。（意思決定）（人間関

係形成) (将来設計)

- (3) 適切な社会規範やマナーを身につけ、他と関わりあいながら社会的責任を果たせる児童を育てる。(人間関係形成) (情報活用) (意思決定)

特に今年度の重点として、「自分の目標に向かって努力しようとする態度を育成する。」と決め、とりわけ地域の中で自分の仕事や趣味などにおいて自分の理想や思いを大切に物事に取り組んでいる方々と接し、「こうありたい、こうしたい。」という自分の願いや思いが持てるよう取り組むことにした。

3 実践例

〔事例1：総合的な学習の時間 (第3学年) 「ザ・蚕桑～蚕をそだてよう～」〕

- (1) 期 間 平成18年5月26日～10月中旬

- (2) ね ら い

ア 蚕の飼育に携わる方から話を聞くを通して、蚕桑地区と蚕のつながりや人々の思い・苦勞が分かる。(情報活用能力)

イ 蚕を飼育・観察し、その繭を使い桜の木を作ることを通して、昔から養蚕が盛んだった蚕桑地区を大切にしようとする気持ちをもつ。(将来設計能力)

- (3) 活動の内容

ア 稚蚕小屋で蚕のはきたて(えさやり)を見せてもらう。

イ 1 齢期の蚕をいただいて、自分たちで飼育・観察していく。(孵化～羽化・産卵) 時折蚕の様子を見ていただき、アドバイスをもらう。

ウ 蚕の一生についての学習をする。

エ 蚕の飼育に携わる方からお話をいただき、蚕桑地区と蚕のつながりや人々の思い・苦勞について知る。

繭細工の先生から蚕桑の桜についてお話をいただき、そのあとで、自分たちで育てた蚕の繭で桜の花をつくり木に取り付け、桜の花がさいた木をみんなの力で作り上げる。

- (4) 児童の感想

ア 昔の蚕は、すぐおなかをこわしてうまくできなくて、蚕を育てる人は大変だったんだなあとと思った。それに、何回も改良をして、今みたいな繭になったことをはじめて知った。

イ 円福寺などの「蚕の神様」が祭ってあるところが、はくたちの地域にこんなにたくさんあるとは知らなかった。



ウ 蚕の繭から、とてもきれいな桜も作れておもしろいなあとと思った。せっかく自分たちで育てた蚕なので、桜をもっと作りたい。

- (5) 講師の方から一言

ア 蚕桑は昔から養蚕が盛んだったので、子どもたちが少しでも地域のことをイをでも地域のことを知ってくれてうれしい。



イ 子どもたちが「蚕」を実際に育てる機会を持てることは大変よいと思うので、これからもぜひ続けていってほしい。

〔事例2：総合的な学習の時間及び特別活動 (第6学年) 「身体に障害のある人について考えよう」〕

- (1) 期 間 平成18年6月～12月

- (2) ね ら い

ア 老人介護や障害者介護に関わる仕事についてお話を聞いたり見学したりすることを通して、仕事への喜びや大変さを知り、介護という仕事への理解を深めることができる。(将来設計能力)

イ 施設の見学や障害者、介護者の疑似体験を通して、今後自分達にできることはどんなことを考え、まとめることができる。(情報活用能力)

- (3) 活動の内容

ア 白光園(老人介護施設)に勤務されている地域の先生をお呼びし、お年寄りの介護についてお話を聞く。

(ア) 人間が歳をとると肉体的にできなくなることや社会的・精神的に失うことなどについて聞く。

(イ) 寝たきりになったお年寄りや認知症のお年寄りに関わった時の苦勞についてお話を聞く。

(ウ) 今自分達がどのように関わることがお年寄りに喜んでいただけるのか教えていただく。

イ 目隠しをして廊下を歩き、目の不自由な人の気持ちを考えたり腰を曲げたまま廊下を歩いてお年寄りの気持ちを考えたりすることを通して、体の不自由な人の気持ちを想像し、自分達にできることは何かを考える。

ウ 老人介護施設「白光園」を訪問して、実際に施設の様子や介護士の方の仕事ぶりを見学するとともに、入所者の方々との交流を行う。

- (4) 児童の感想

ア 今まで、お年寄りには優しくすれば喜んでくれると思っていました。しかし田苗先生のお話を聞いて、お年寄りには全部やってあげるのではなく、できることはさせてあげて、私達はそれを支えてあげるということが大切であるということがわかりました。わたしは、これからの勉強に役立てていきたいと思います。

イ 介護士の方を見たとき、大変そうだと思いました。でも、田苗さんは「この仕事は奥深い仕事」と言っていたことを思うと、きっと介護士の方はこの仕事に誇りを持っているんだと思いました。介護士の方一人ひとりが明るくがんばっていることがわたしはすごいと思いました。



(5) 講師の方から一言

今後、老人介護について学習を進めるにあたり、「介護の現実を知る」をメインにするならば、交流をするよりは施設や仕事の見学を通して、介護士の仕事を手伝ったり介護士とじっくりと話し合ったりした方が実感できるのではないかと思います。

4 成果と課題

〈事例1から〉

- 蚕桑地域と「蚕」のつながりや昔の人の蚕を育てる苦労などについてのお話をいただき、自分たちの住んでいる地域や人について深く知ることができた。
- 蚕の飼育活動を愛情を持って行うことができ、生き物を大切にすることを育むことができた。また、繭を使つての桜花作りにも意欲的に取り組むことができた。
- 地域の先生方には大変お世話になった。蚕の飼育のために土曜や日曜も毎日学校に来ていただいたが、地域の先生方のお仕事もある中で、その調整が難しかった。

〈事例2から〉

- 介護の先生のお話を聞いて、老人がどのような状態にいるのか、また、介護についての現実などを知ることができ、介護の仕事の大変さに気づくことができた。
- 実際に施設を見学したり交流したり、介護士の仕事をらせてもらったりすることにより、現場の様子や介護士の仕事の大変さを少しずつ実感できるようになった。
- 食べ物をミキサーにかけないと食べることができない人やずっと寝たきりの人がいることなどについては、理解が不十分なところがある。
- 今回、6年生に職業に関するアンケートをとってみた。つきたい職業は

「自然と科学」	5%	リハビリを助ける人1	看護師1
「アートと表現」	41%	ゲームクリエイター6	漫画家3 デザイナー1 美容師等3 ソフトプログラマー1 等
「スポーツと遊び」	13%	バスケ選手3	サッカー選手1 野球選手1
「生活と社会」	38%	レスキュー隊2	教員1 消防士1 料理関係等4 デザイナー1 保育士3 銀行員1 介護士2 等

次に、「職業を選ぶときの観点」についてみると、「お金が儲かること」15%、「たのしいこと」24%、「好きなことやとくいなこと」35%、「人の役に立つこと」26%であった。以上のことから、あこがれからくる職業を選択している子どもが多いと言える。しかし、職業選択の理由に、「人の役に立つこと」を選んだ子どもが増えてきている。特に、女子だけを見ると、「人の役に立つこと」を選んでいる子どもが32%で最も多く、職業選択の意識が高くなってきたと思われる。〈全体を通して〉

- 今回、養蚕や老人介護に携わる方々から体験活動や見学・交流を通して、その人が持つ仕事に対する思いや願いを子どもたちなりに感じ取ることができた。また活動に携わる方の苦労や喜びも実感することができた。
- 子どもたちに、どんな力をつけさせたいか、ねらいの焦点化をさらにはかって、何に気づかせていくかを明確にして取り組ませていくことが大切である。

(2) 白鷹町立鮎貝小学校

1 キャリア教育の視点から見た学校の現状

本校は、白鷹町の北西部、最上川の西側に位置し、明治5年に開校し今年で135回の創立を迎えた歴史と伝統のある学校である。かつて、「心の強い子に育てよう」と馬を飼育したこともあった。これまで36年もの長い間「獅子舞」が続き、豊かな環境のもとで「教育の森」の活動や走運動が伝統的に引き継がれている「創造と創意工夫」に満ちた学校である。

今年度は全校生198名、全学年単学級、たんばば学級を入れて7学級である。子どもたちは素直で明るく、「明るいあいさつ」「明るいえがお」「明るい心」という合い言葉のもと、豊かな学習環境の中で、生き生きと学習に取り組み、伸び伸びと学校生活を送っている。

本地域は農業が基幹産業で、米作を中心に畑作、酪農、果樹栽培が盛んである。工業は伝統工芸品の深山和紙、深山焼き、白鷹紬のほか、近年では、電気工業、精密機械工業の進出が見られる。地域の人々は勤労を尊び、教育については関心が高い。

本校は、平成16年度から3か年にわたって、文部科学省より「キャリア教育推進地域」の指定を受け、子ども達に将来への夢や希望を膨らませ、自分の個性を伸ばしながら主体的に行動する子どもを育成するために、教育課程編成の工夫、勤労体験、キャリアアドバイザーによる職業講話等の実践に取り組んできた。また、これまでの学校教育活動をキャリア教育の視点で見直し、学年の発達段階を踏まえながら系統的に年間指導計画を立案し実践を重ねてきた。

キャリア教育のアンケート（平成18年1月実施）では、「あなたはお手伝いをしていますか」の問いに対して、毎日しているが約30%、時々しているが約40%で7割の児童がお手伝いをしていると答えている。「お家の人と将来の夢やつきたい仕事について話し合ったことはありますか」という問いに対して、4年以上の69%の児童が「ある」と答えている。児童・保護者のキャリア教育に対する意識は少しずつ高まってきているが、学校と家庭・地域との連携を一層深めていく必要がある。

2 つけたい力

(1) 人間関係形成能力

- ・挨拶ができる。 ・ありがとうが言える。 ・自分や他のよさがわかる。

(2) 情報活用能力

- ・身近な仕事や職業がわかる。 ・体験から働くことの重要性がわかる。

(3) 将来設計能力

- ・役割の大切さがわかり、きまりを守れる。 ・夢実現に向け今すべきことが言える。

(4) 意思決定能力

- ・良いと思うことに進んで取り組む。 ・最後まで責任を持ってやり抜く。

3 実践例

〔事例：総合的な学習の時間「福祉ってなあに？」（第3学年）〕

(1) ねらい

- ア 福祉の仕事に就くようになったきっかけや仕事をしていての喜び、苦労等を聞くことに

よって、現在の自分を見つめ、将来の自分の進路について考えることができるようにする。

(将来設計能力)

イ 働くことの喜びや大変さを聞き、労働の必要性や素晴らしさを感じ取ることができるようにする。(情報活用能力)

(2) 講師 はっぴーデイサービスセンター所長 福田 芳郎 氏

(3) 活動の実際

ア 話の要約

- 10代の頃福祉に関心があり、手話サークルに所属し活動をしていた。
- 就職を考えるに当たり、福祉関係の職業に就きたいと思っていたところ、ちょうど白鳥園の募集があったので申し込み、採用になった。
- お年寄りの方々が、嬉しそうな顔をしてくれることが最大の喜びである。
- 車椅子で移動する時、お年寄りが不安になったり、衝撃が伝わったりしないように十分に気をつけている。
- 腰を曲げての仕事が多いので腰痛が悩みである。 など

イ 車椅子乗車体験

車椅子に乗り、段差のあるところを実際に上ったり下ったりし、車椅子に乗っている方々の気持ちを実感できるようにする。

(ア) ポイント

- 小さな段差は、前向きのまま前輪を上げて通過する。
- 大きな段差になると、前輪で乗り越すのは不可能なので、後ろ向きになり、車輪の大きい後輪で乗り越すようにする。
- 急に車椅子を傾けると乗っている人はびっくりするので、必ず「傾けるよ」と声をかけてから傾けるように配慮する。
- 階段のような段差の続くところは、後ろ向きで乗り越すが、乗っている人は、高低差で恐怖心を抱くので、怖がらないように、足の部分に手を添える人を一人つけるようにしている。

(イ) 児童の声

車いすに乗って段差のあるところを通る時、補助する人に声をかけてもらわないと、とつぜんかたむくのこわかったです。

車いすの補助をしている人は、いつも乗っている人のことを考えて仕事をすることがわかりました。すごい仕事をしているんだなぁと思いました。



ウ リフトアップ体験

施設の外に出かけたり、老人の自宅を訪問したりする時には、車椅子ごと車に乗り込めるようにリフトアップできる車があることを紹介していただいたので、実際に車椅子に乗りながらリフトアップして乗車する体験をした。

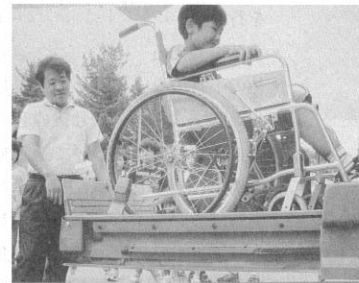
(ア) ポイント

- 以前はスピードを速くする方向で考えていたが、あまり速いと乗っている人が恐怖心を抱くので、怖がらないで乗れるようなスピードになるようにしている。
- 乗車した後は、車の中にしっかり固定できるようになっており、車椅子のままでも安心して乗れるようになっている。
- 車椅子は2台乗れるが、その他普通の椅子があり、全部で5～6名乗れるようになっている。

(イ) 児童の声

リフトアップして、車いすごと車に乗れることがすごいと思いました。もし、車いすに乗るようなことになったら心配だったけど、ちょっとだけ安心しました。

施設の中だけでなく、外にも出かけられるようにいろいろ工夫をして仕事をしていることがわかりました。私もこういう仕事をしたいなぁと思いました。



(4) キャリアアドバイザーからの声

まず子ども達の真剣な態度、そして話を聞く時の目の輝きに、とても驚きました。いろんな可能性のある子ども達です。興味のあること・やりたいこと・得意なことを伸ばしていただき、将来の漠然とした職業観などを持つようになればありがたいです。子ども達には、夢をあきらめず、自分がなりたいものにチャレンジしてほしいと思います。これからもこのような機会をたくさん設けて頂きたいと思います。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 顔のわかる、地域の方のお話をお聞きすることによって、内容をより身近に感じ取ることができ、3年生の児童ではあるが、働くことの意義や喜びを十分に理解することができた活動であった。

イ 福祉学習を一つの単位として組んでいるので、系統立てて学習することができ、児童の福祉に対する理解を深めることができた。

○ 単元の学習例

- 道徳で身体の不自由な人の学習をし、肢体不自由者に対する思いやりの気持ちを育てる。
- 目の見えない人や耳の聞こえない人の大変さを理解するために、器具を使い疑似体験

を行う。

- 手話を覚える
- 体の不自由な人のために工夫していることを、身近なところから探し出す。
(点字ブロック・信号機の音・車椅子用トイレ・入り口のスロープ など)
- 車椅子での介護について講話を聞き、実際に動かしてみたりする。
- 車椅子に乗車し、車椅子に乗っている人の目線に立って物事を考えてみる。
- 福祉施設を訪問し、お年寄りと交流を持つ。

ウ キャリアアドバイザーのお話を聞いたり、福祉施設を訪問したり、授業参観日に福祉関連の授業をしたりと、外部との交流を持ちながら学習を進めてきたことで、地域と一体になった取り組みをすることができ、学校と家庭・地域が密接に関わり合うようになった。

エ 家庭の協力もあり、お手伝いをする子が増え、働くことの大切さや仕事の役割分担、仕事に対するの責任感などを身につけることができるようになった。

(2) 課 題

小学校段階では、将来の仕事に結びつくような直接体験は必要ないと考える。それよりも、働くことの喜びや働くことの必要性、自己の有用性等を感じる取り組みになるように、いろいろな職業を体験したり、いろいろな考え方を持っている人と触れたりしながら、心を耕していく活動を数多く体験させたいと考えている。

今年度は、福祉の面からキャリア教育に迫ったが、さまざまな職業がある中で、児童に必要感を持たせながらどんな仕事をどんなテーマで取り上げていくのが課題である。

(3) 白鷹町立鷹山小学校

1 キャリア教育の視点から見た学校の現状

白鷹町は、平成16年度から3カ年間、文部科学省より「キャリア教育推進地域」の指定を受けており、本校でも町と一体となってキャリア教育へ取り組んでいるところである。

本校は、全校生41名、教職員9名、2・3年と4・5年が複式学級という小規模校である。周囲を山で囲まれた豊かな自然環境に恵まれており、保護者や地域の方も協力的である。子どもたちは、素直で明るく、何事に対しても一生懸命に取り組んでいる。

また、掃除やボランティア活動、学級での係分担、児童会活動などに、まじめに取り組む子どもたちである。一方、人間関係が固定化されがちのために、他どうまく関わって自分らしさを発揮することが難しい子もあり、コミュニケーション力をつけていかなければならない面もある。

家庭環境面では、祖父母との同居が多く、比較的幅広い人間関係の中で育ってきている。ただ、家族の一員として、家での仕事を受け持ち、常時実践しているかとなると十分とはいえない状況である。また、家族の仕事に関心を持ち、仕事の喜びや苦労などについて話を聞く機会も少ないのが現状である。

地域においては、獅子舞や祭りなどの伝統行事に参加したり、子ども育成会や公民館活動などでさまざまな体験をしたりするなど、地域の方々との交流も多い。

2 つけたい力

(1) 人間関係形成能力

- あいさつがしっかりできる。
- 自分や他のよさがわかる。

(2) 情報活用能力

- 身近な仕事や職業についてわかる。
- 働くことの重要性がわかる。

(3) 将来設計能力

- 将来の夢や目標を持つ。
- 夢や目標の実現に向けて、これからすべきことがわかる。

(4) 意思決定能力

- よいと思うこと、正しいと思うことに進んで取り組む。
- 最後まで責任を持ってやり抜く。

3 実 践 例

〔事例1：道徳（4・5学年複式）〕

(1) 主 題 名

「夢に向かって進んでいこう」（資料名：ドラえもんの声／学研5年）

(2) ね ら い

大山のぶ代さんが自分の声にひけめを感じ、悩みながらも、努力を積み重ね、自分にあった道を発見していった過程を考えることを通して、自分の夢を持ち、自分自身を積極的に伸ばしていこうとする心情を育てる。

(3) 実践から

ア ねらいとする価値について

自分でやろうと決めたことを辛抱強くやり抜くことは、どんな小さなことであろうと難しいものである。自主性を発揮し、自分でやろうと決めたことに対して、積極的に取り組み、粘り強くやり遂げようとする心を育てることが大切である。そして、努力を続けていくためには、まわりの人々の励ましや支えが重要になってくる。

自分の夢の実現のために、目標を決めて努力する人間を育てていきたい。これは、自分自身に関する内容項目であるが、高学年では、新たに「自分の特徴を知って、悪いところを改め、よいところを積極的に伸ばす」という項目が出てくる。人にはそれぞれ特徴があり、その人らしさが内在している。各自が、そのよさを自分の長所として伸ばすことは、同時に短所に注意しこれを克服しようと努力することにつながる。しかし、児童はそのよさを長所として気づかずにいることが多いので、早く気づかせて自覚させ、さらにそれを伸ばそうとする気持ちを育てることが重要である。本学級は4・5年複式のため、この内容項目もねらいとし、将来の生き方を考えるきっかけとしていきたい。

これらのねらいは、自分らしさを発揮する人間関係形成能力や、将来の夢や希望を持つ将来設計能力を育てるというキャリア教育に深くつながっている。

イ 児童について

○ 4年(男3名、女4名)5年(男2名、女6名)計15名の学級である。4月から4・5年複式になり3か月、にぎやかな4年生、おとなしい5年生という学年の雰囲気は、道徳や学級活動の話し合いでも感じられる。それぞれの学年のよさを学び合おうと声かけはしているが、まだまだそこまでは高まっていない。将来の夢についてのアンケートは、4月と6月にとったが、漠然としていて、まだ、よくわからないながら書いた、というのが本音のようである。何人かは、その夢に対するあこがれを強くもっている。

○ アンケートの結果から

- ・将来の夢…水泳選手、りんご作り、マジシャン、漫画家、ペットショップ、デザイナー、少女漫画、パティシエ(以上4年)／水族館の飼育、介護士、サッカー選手、美容師、ペットショップ、ケーキ屋、虫博士、お菓子屋(以上5年)
- ・夢に向かってがんばっていることがあるか…12人(水泳練習、マジック練習、絵描き、スポ少練習、菓子作り、デザイン考え、動物との触れ合い、弟の世話、虫の飼育、魚の本読み)
- ・長所…水泳やクロカンがうまい・あいさつ、生き物や野菜を育てる・笑う、字がいていねい・足が速い、明るい・力がある・何でも食べられる、習字・リコーダー・頼りにされる・字が上手・物覚えが速い、料理・音楽・水泳・すぐ友達になれる／サッカー・クロカン・計算、水泳・クロカン・大きな声、水泳・クロカン・給食・風邪をひかない、一輪車・水泳・ピアノ、明るい・頼りにされる・工作・おかし作り、計算・真面目、虫探し・木登り・片付け、忘れ物が少ない・絵・字(以上5年)
- ・短所…短気・字が下手、絵や文字が下手、短気、口が荒い、姿勢が悪い(以上4年)／言葉が荒い・短気・字が汚い、字が雑・スポ少をさぼる、すぐ怒る・片付けをしない・すぐ諦める・隠し事がある、背が低い、言葉が変・おっちょこちょい、すぐ怒る・

虫を捕ってきてしまう、言葉が悪い(以上5年)

○ 児童の実態とアンケートの結果を受けての教師の願い

今の段階で、おぼろげながらではあるが、将来の夢を15人全員が持っているということとはすばらしいと思う。そして数名ではあるが、その夢に向かって具体的に取り組んでいる子どももいる。しかし、自分の長所や短所にも自分なりに気づいているものの、長所を伸ばそうとしたり、短所を克服しようとしたという意識の高まりはあまり感じられない。そこで本時の道徳の時間に、ドラえもんの声優として夢を実現させた大山さんのことを知ることで、弱点をはねかえそうとしたり、夢に向かって努力を続けたりすることの大切さに気づかせていきたい。

ウ 資料について

本資料は、ドラえもんの声で有名な大山のぶ代さんの実話であり、自分の声を悪いものとしてあきらめるのではなく、努力をした結果、声優としての夢を実現させていく過程を描いている。共感的に自分の長所・短所と将来の夢を考えさせるのに適した資料である。

エ 本時の指導過程

(導 入)

① 自分の苦手なことを思い起こす。

- 苦手だと思ったり、悩んでいることはありませんか。(※人間関係形成能力に関わり、自分の短所を意識させておく。)

(展 開)

② 資料「ドラえもんの声」を読んで話し合う。

- この声に聞き覚えはありませんか。
- 中学生の頃、何かしゃべると人に顔を見られたとき、「わたし」はどんな気持ちだったでしょうか。(※役割演技をしながら、声にひけめを感じ、気おくれしていく「わたし」に共感させる。)
- 高校時代に「わたし」は、どんな気持ちで演劇に打ち込んだのでしょうか。
- 「わたし」が自分に合った道を見つけたのはなぜでしょう。(※意思決定能力に関わり、「わたし」の負けん気や努力の様子を豊かに想像させる。)

③ 自分の苦手なことについて努力したり、夢に向かって頑張っていることなどを話し合ったりする。

- 自分の苦手なことをなおそうと努力していることはありませんか。また、自分の夢に向かって頑張っていることはありませんか。(※ここでは、希望を持って努力したことによって、自分の特徴が長所が変わっていったことに気づかせることによって、自分のよさを伸ばそうとする意思決定能力を育む。)

(終 末)

- ④ 本時の主題に関わる事例について、教師の経験談を話す。(※自分らしさを大切にするという人間関係形成能力を育むような話をする。)

オ 授業の実際

《展開の場面②より》

T：大山さんは、どうして夢をかなえることができたのかな。グループごとに話し合っ

みましょう。今日の司会の人、おねがいします。

C1: ぼくは、まわりの人が支えてくれたからだと思います。

C2: ぼくは、それもあるけど、大山さんが努力したからだと思います。

C3: わたしは、演劇部に入ってからがんばって、はずかしがらずに声を出せるようになったから、声優になれたんだと思います。

C1: 努力した、というのがいいね。

C2: お母さんや先生の支え、というのも大きいと思うよ。

(この後、グループごとに話し合ったことを発表)

《展開の場面③より》

T: 夢といえば、皆さんにも夢がいっぱいありますよね。夢に向かってがんばっていることはありますか。

C4: 私は、パティシエになりたいので、ときどきお菓子を作ったり、料理をしたりしています。

C5: 私は、幼稚園の先生になりたいです。だから、まだ小さい弟を寝かせたり、いっしょに遊んであげたりして、世話をしています。

(この後、教師の説話)

カ 児童の声

大山さんも最後まであきらめなかったからこそ、声優になれたんだと思います。ぼくも最後まであきらめずにがんばりたいです。

わたしは、大山さんがドラ声でかわいそうだと思います。だけど、そのドラ声を生かしてドラえものの声をやっていて、すごいなあと思いました。わたしも、じゅう医さんをめざしているの、いろいろな動物のことを勉強して、将来ぜったいじゅう医さんになりたいです。そして、大山さんのようにあきらめないでがんばりたいです。

キ 考察

- 自他の長短をとらえるという人間関係形成能力に関わり、導入時に、自分の苦手なことや悩みを思い起こさせて資料に入ること、主人公の気持ちに寄り添うことができた。
- 展開の場面②において、役割演技も入れながら主人公の気持ちを共感的に考えさせた。その結果、主人公の負けん気や努力の様子を、自分自身と重ね合わせながらとらえ、目標達成に向けて努力することの大切さを感じ取ってくれた。
- 展開の場面③では、自分のよさを伸ばそうとする意思決定能力の育成に関わって、自分の夢について考えていくという場を設定した。本資料の主人公の様子に触発されながら、自分らしさを発揮していこうと努力する気持ちや、将来について夢や希望を大事にしていこうという意欲を高めていくことができた。

〔事例2: 総合的な学習の時間 (3年~6年) 「夢への第一歩~いろいろな仕事お話し会~」〕

(1) ねらい

身近な人々の仕事についての話を聞くことを通して、職業への関心を持たせるとともに、仕事の喜びや苦勞について気づくことができるようにする。



(※この学習は、「社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さをわかる」・「職業にあこがれを持つ」という将来設計能力を養うことにつながる。また、目標に向かって努力することや責任を果たすという意思決定能力を育てることに関連してくる。)

(2) 進め方

ア アンケートをとり、子どもたちが大人になつたらなりたい仕事、今知りたいことなど

について把握する。

イ アンケートをもとに、8つの職種について地域の方や親に依頼する。(作業療法士、美容師、菓子職人、消防士、警察官、整備士、保育士、酪農家)

ウ 子どもたちは2つの職種を選び、話を聞いたり質問したりする。

エ 学級で学んだことや感想などを交流する。

オ 講師の方にお礼の手紙を書き、学んだことや自分の考えをまとめ、次の「家の人の仕事調べ」の活動につなげていく。

(3) 活動の実際

講師には、仕事の説明だけでなく、仕事にける熱い思い、仕事の喜びや情熱、誇りなどを語っていただいた。子どもたちが理解しやすいように、職場等の写真を準備した。

また、講師には仕事着や道具を持ってきたいただき、実際に着たり、扱ったりもさせていたいただいた。

(4) 活動後の児童の作文より

私の将来の夢は、美容師になることです。私は、今日のお話の中で、シャンプーを3カ月続けていると、指紋がなくなつてつるつるになり、茶わんが持てなくなるほどだと聞き、びっくりしました。それから、お客さんのかみの毛を巻いていると、指を曲げただけでバキバキと割れるということを知り、想像しただけで痛そうで、やっぱり美容師になるのはやめようかなと思いました。でも、その後のお話で、「お客さんがきれいになって喜んでくれるのが、とてもうれしい。」ということを知ったら、大変なことを乗りこえたと、うれしいことがいっぱいあるんだなと思いました。(途中略)

(5) 考察

ア 講師の方には仕事着や道具を持ってきたいただき、実際に着たり、扱ったりもさせていたいただいた。また、仕事の詳しい内容など初めて知ることも多く、子どもたちは、興味・関心を持って話を聞くことができた。

イ 仕事にける思いや喜びなどを話していただいたことで、子どもたちは働くことの多様な価値に気づき、今後の生活に生かそうとする意欲が高まった。

4 成果と課題

(1) 成 果

ア キャリア教育の視点から見た子どもの実態とそれに基づいて設定したつきたい力を、教科・道徳・総合的な学習の時間などと関連させながら育んできた。事例1の道徳の授業では、道徳のねらいと関連させながら、自分らしさを発揮する人間関係形成能力や、将来の夢や希望を持つ将来設計能力を育てるという、キャリア教育の視点を加えたねらいを設定した。児童の興味関心をひく題材ということもあり、児童は意欲的に学習に取り組み、共感する姿と目標に向かってがんばろうとする決意が表れていた。

イ 白鷹町におけるキャリア教育の一環として、キャリア・アドバイザーを活用した授業等への取り組みがある。事例2では、地域や保護者の方8名から協力してもらい、仕事の内容や喜び、価値観などについて話をしてもらったり、実際に仕事で使っているものを見せてもらったり扱わせてもらったりしたが、勤労観や職業観を養うのに効果的だった。また、この学習で学んだことを生かして、親の仕事について調べ、職業への関心を持たせるとともに、仕事の喜びや苦勞について考えていく学習へとつなげていくことができた。

(2) 課 題

ア キャリア教育は、教育課程全体を通して取り組んでいくことが必要であるが、どんなねらいで、どんな力をつけていくのかを明確にして教科等との関連を図っていく必要がある。

イ キャリア教育がねらう4つの能力が、どのように身に付いているのか、検証しながら取り組みの改善を図っていくことが大切である。

ウ 家庭や地域と連携していくことが、キャリア教育を有効に推し進めていく大きな要素であると思われる。事例2でも、保護者や地域の方から協力を得て実施したが、今後、アドバイザーから寄せられた意見も取り入れながら取り組んでいく必要がある。

以下は、アドバイザーからの意見の抜粋である。

「講話の時間をもう少し設けてほしい。子どもたちが講話後に持った感想を記録として残し、時間が経過した後の変化を見てみたい。もっといろいろな職業があるので、幅を広げさせてほしい。もっと多くの方の話を聞けたら、いろいろな発見があったり、イメージが変わったりすると思う。」

エ 今後もいろいろな職の方から参加してもらうように試みていきたい。ただ、来年度からは白鷹町がキャリア教育推進地域指定でなくなるために、アドバイザーへの謝礼をどうするかなど課題が残る。

2 中 学 校

(1) 白鷹町立西中学校

1 キャリア教育の視点から見た学校の現状

平成6年度、文部省より『中学校進路指導総合改善事業推進地域』実施校の指定を受け、「夢や希望を持ち、たくましく生き抜く生徒」が育つ進路指導の研究主題を掲げ、「自分の夢や希望を胸を張って語れる生徒」「困難なことにも果敢にチャレンジするたくましい生徒」の育成をめざし、3カ年研究を推進した経緯がある。このときの研究の中核をなしたのが、「学級活動における進路学習の充実」と「啓発的体験活動の充実」であった。肯定的自己理解を深め、保護者や地域の方々の協力を得ながら自ら課題の解決を図る進路の学習、家業体験や職場体験、夢・希望発表会などの啓発的体験活動は、多少形式を変えたものはあるものの十年以上経った今も受け継がれている。

このような意味で、本校では単に進学だけに偏った出口指導としての進路指導ではなく、かねてからキャリア教育の視点に立った進路指導の充実を図ってきた。また、地域柄素朴で素直な生徒が多く、地域や保護者も学校教育活動に対してとても協力的である。5日間の職場体験学習を計画するにあたって、地域人材の育成として生徒を受け入れてくれる事業所もあり、キャリア教育を地域全体で推進する体制の基盤ができている。

2 つきたい力

本校の生徒は、キャリア教育の職業的（進路）発達にかかわる4つの能力に照らし合わせると、「情報活用能力」の「職業理解能力」が弱い傾向がある。また、自分の考えを積極的に述べたり（意思決定能力）、他と積極的に関わろうとしたりする「人間形成能力」の「コミュニケーション能力」を高める必要がある。

そこで、5日間の職場体験学習を通して、次の3つにポイントをしぼり、力をつけていきたいと考えた。

- (1) 実際に「働く」という体験を通して、また、実際に働いている人と接することを通して、働くことの意義や喜び・大変さなどを実感するとともに、職業と自分の適性などについて考え、より適切な勤労観や職業観を身につけること。（将来設計能力）
- (2) 社会生活や職業生活を営む上で、ルールやマナーとしての規律・礼儀作法・挨拶や返事・言葉遣いなどの大切さを実感し、生かしていくこと。（人間関係形成能力）
- (3) 職業や地元企業などについて理解を深めること。（職業理解能力）また、職場の方々やお客様などとの社会人としての関わりを通して、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、総合的な学習の視点から、課題設定能力や課題解決能力の伸長を図りたいと考えた。

3 実 践 例

【総合的な学習としての連続5日間の『職場体験』】

(1) 期 日

平成18年7月3日（月）～7日（金）の連続5日間

(2) 体験場所 白鷹町内の職場（全21事業所）

- ア 公共サービス関係
町役場、町立病院、老人ホーム、保育園、学校など 7 事業所
- イ 製造業関係
電気・電子関連、機械関連、菓子製造関連など 3 事業所
- ウ 生活環境開発業関係
自動車整備 1 事業所
- エ 小売業、サービス業
商店、スーパー、美容、理容、給油所、食堂、印刷業、書店など 9 事業所
- オ 農 林 業
農園 1 事業所

(3) 参加生徒

男子28名、女子34名、計62名

(4) 体験方法及び内容

- ア 指定された時間より10分前までに、体験する職場に到着する。
- イ 職場では、次のことを学習する。
 - (a) 職場見学と説明・講話
 - (b) 実際の作業実習・体験
 - (c) 現場で働く人から実際にお話をお聞きする。
- ウ 終了したら感謝を込めてあいさつし、学校に戻って体験状況を報告する。
- エ 帰宅したらすぐ、感想や反省などをまとめ、お家の方に助言をいただく。

(5) 一日の体験学習の日程（あくまでも原則で、各職場によっては別日程となる）

- ～8:30 出勤
- 9:00～15:30 体験学習など
- 15:30～15:50 体験学習のまとめ（研修ノートを書く）
- ～16:00 退勤（学校に戻り報告後、部活動に参加）

(6) 服装、持ち物

原則として体育時の運動着、昼食、筆記用具、研修ノート
（職場によって異なる場合があるので、事前打ち合わせの時に確認する）

(7) 交通手段

自転車（遠いところについては、家の人の送迎も可）

(8) 心構えとマナー

- ア 気持ちのよいさわやかなあいさつを行う。
- イ 感謝の気持ちを忘れないで、礼儀正しく敬語ではきはき話す。
- ウ 担当の人の指示に従う。
- エ 一生懸命に働く。
- オ 仕事の迷惑になるようなことはしない。
- カ 昼食や休憩時間などを利用して、積極的にお話をお聞きする。

(9) 事前の準備

ア 体験する職場の仕事などについて、予め調べておく。

イ 単なる体験として終わらないように、どんな心構えで職場体験に臨めばよいのか、体験を通して何を学びたいのかなどをまとめておく。

ウ 総合的な学習の時間における自分のテーマを追求するために、質問したいことなどを予め用意しておく。

エ 事前打ち合わせなど、生徒自らが連絡調整を行えるようにする。

(10) 事後の学習

ア 仕事の内容や体験した感想などについて、家族と話し合う機会をもっていただく。

イ お礼状を書く。

ウ 体験レポートの作成及び文集づくり、発表会などを行う。

(11) 総合的な学習の時間との関連

ア 学校全体のテーマ

『自分探しの旅』（キーワード；地域、体験、関わり）

イ 2年生の学年テーマ

『人と共に生きよう』（職業の世界）

ウ 総合的な学習としての職場体験の進め方

(a) 体験前～体験先を決める。

- 自分が考えている進路（将来の職業）と関わりがあること。
- 動機が明確であり、体験事業所での仕事に興味や関心があること。
- 自分で選んだ事業所で必ず5日間やり通せる自信があること。

(b) 体験前～予め自分なりの考えや疑問を持って参加する。

- 自分が体験する職場の魅力は何だろう。どんな魅力を持たせようとしているのだろうか。
- そのために工夫していることや大切にしていることは何だろう。
- 自分が体験する職場で大変なことや苦勞されていることは何だろう。
- 自分が体験する職場は、社会にどのように役立っているんだろう。
- 自分が体験する職場で求めている人間とはどんな人だろう。

(c) 体験中～体験を通して解答を探したり、新たな疑問を発見したり、いろんな気づきを大切にする。

- 予め考えていた疑問に対して、体験を通して解答を探してみる。
- 新たな疑問を発見してみよう
 - ・職場で考えている魅力は、お客様にどんなふうに乗っているだろう。
 - ・魅力をどんなふうに応用しているんだろう。
 - ・地域や他の会社（事業所）と、どのようにつながっているんだろう。
- 新たな自分の発見に努める。
 - ・苦手なことや不得手なことにも挑戦する。
 - ・一つのことに継続して取り組む。

(d) 体験後～アクションを（疑問や発見を大切にしながら新たな課題を設定する）

- 自分はこのように頑張ってみよう。

- さらにこんなことを調べてみよう。
 - ・お客様や利用者の立場に立って。
 - ・他の職業と比較して。
 - ・クラスの仲間の意見は？（話し合いをもって考える）

○ さらにこんな取り組みを行おう。

(e) 発表会～発表にひと工夫を（効果的に発信する）

- 魅力あるタイトルを考えよう。
- 一人ずつ発表する。（図や写真を必ず入れる）
- 発表の中に、職場体験で気づいた「自分の良さ」「新たな自分の発見」について触れる。

(12) 職場体験実施後の生徒アンケートの結果（抜粋）

ア 充実感や自分なりの学びなど得るものはあったか。

- (a) とても得るものがあった。 71%
- (b) まあまあ得るものがあった。 29%

イ 働くことの喜びや大変さを感じ取ることができたか。

- (a) 大いに感じ取ることができた。 73%
- (b) まあまあ感じ取ることができた。 27%

ウ マナーやルールの大切さを学ぶことができたか。

- (a) 大いに学ぶことがあった。 53%
- (b) まあまあ学ぶことがあった。 47%

エ その職業についての理解が深まったか。

- (a) とても深まったと思う。 60%
- (b) まあまあ深まったと思う。 40%

オ 職場の方との交流を通して、自分の生き方の参考となることはあったか。

- (a) とても参考になった。 24%
- (b) まあまあ参考になった。 69%
- (c) あまり参考にならなかった。 7%

カ 自分の将来の職業について考えたか。

- (a) とても考えた。 21%
- (b) まあまあ考えた。 61%
- (c) あまり考えなかった。 18%

キ 「働くこと」に対する意識はどう変わったか。

- ・働くことは大変だが、喜びやうれしさがあること。
- ・働くということは、自分で考えて実行に移すことが重要（頼れるのは自分だけ）。
- ・周りの人やお客様のことも考えながら、仕事をする。
- ・お金を稼ぐことはもちろんだが、一緒に働く人たちとマナーを守って楽しく仕事をする

ク 今後の日常生活に生かしていきたいことはどんなことか。

- ・あいさつ、返事、言葉遣い、笑顔。

- ・マナーを守る礼儀。
- ・一つ一つに集中して取り組むこと。
- ・コミュニケーションの大切さ。

ケ 毎日働いている家族にどんなことを感じたか。

- ・尊敬した。すごい。
- ・家族を支えてくれていることを改めて感じた。
- ・親に迷惑を掛けないようにしたい。
- ・毎日一生懸命働いているのだから、あまりわがままを言わないようにしよう。
- ・親の手伝いをもっとして、家での仕事を少しでも減らしてあげたい。

(13) 職場体験実施後の事業所アンケートの結果

ア 仕事に対する態度はどうだったか。

- (a) 良かった。 68%
- (b) まあまあ良かった。 32%

イ あいさつや言葉遣いはどうだったか。

- (a) 良かった。 47%
- (b) まあまあ良かった。 53%

ウ 職場体験についての感想や学校への要望など

- ・この度の実習生は常に笑顔で働いてくださって、職員・利用者にとっても評判が良かったです。施設としても若いパワーをたくさんいただき大変ありがとうございました。3人とも将来は福祉の仕事を目指しているとのこと、夢に向かって頑張ってください。
- ・単に1日だけの体験でなく、今回のような5日間という期間を設けていただいたことに對し、学校の授業では学べないことがたくさんあり、職場体験には非常に感心しております。
- ・体験学習も社会人への第一歩だと思います。遊びではなく、仕事に来ているということがわかっていたと思いますが、少し私語が多かったように思います。初めての接客には最初戸惑っていましたが、日が経つにつれ笑顔で接客ができるようになりました。毎日一生懸命仕事をしてくれたので大変助かりました。お疲れ様でした。
- ・受け入れる側として5日間は長いですが、生徒の積極的な態度には好感がもてました。
- ・個人的に配慮の必要な生徒さんについて事前に園長へお話をいただいたので、受け入れ側としての心づもりができ良かったです。学校で事前に生徒さんに教えてくださっている

ので、年々生徒さんの意識が違ってきており、目的意識を持って体験に臨んでくれたようです。

- ・大人3人の中に入って大変気苦労も多かったと思いますが、一生懸命仕事に取り組んでもらいました。地味で目立たないお子さんにこそ（先生も多忙とは存じますが）目をかけ手をかけて育ててやってほしいと願っております。

4 成果と課題

(1) 各事業所にはねらいに沿った体験をさせていただくとともに、帰校後の毎日の個別的な指導によって意欲的な体験となり、生徒個々の学びに深まりが見られた。

（アンケートの結果や体験後の生徒の感想などから）

《生徒の感想》

- あいさつ、礼儀、マナー、身だしなみをきちんとする事の大切さをこの体験で学びました。これらのことをきちんとして、これからの部活動や学校生活地域行事などに生かしていきたい。(男子生徒)
 - 服装や言葉遣いをちゃんと言うことで、相手に印象がよく見られると言うことを改めて感じました。また、時間をちゃんと守り、5分前行動をすることで、次に何をすればいいのかを考えて整理できることがわかったので、これを今後の生活に生かしていきたいと思います。(女子生徒)
 - 今日初めてだったのでとても疲れた。介護の仕事はとても大変だと改めてわかった。今日一日の体験で、お年寄りの方と話をするときには、どんなことに対しても笑顔で「うんうん」と聞いてあげる事の大切さを学びました。(男子生徒)
 - 5日間の職場体験を通して『小児科医になりたい』という夢が一層強くなりました。主に雑用や食事介護などを行う看護助手という職業があることを初めて知り、4日目までその仕事を体験させていただきましたが、ものすごく大変な仕事でした。将来、自分の進路を深く考えることがあると思いますが、この5日間で教わったことを思い出して頑張りたいと思いました。(女子生徒)
- (2) 職場体験そのものは十年来継続して実施しているもので、地域人材の育成の一環として受け入れてくださる事業所もあり、キャリア教育を地域全体で推進する組織・体制ができつつある。
- (3) 体験中や体験後に発見した新たな疑問を、学習集団の中で出し合ったり、それらに対しての各自の考えを出し合ったりしながら、総合的な学習でねらっている課題設定能力や課題解決能力を更に高めていけるような事後の指導の在り方を、今後一層充実させていきたい。

(2) 大石田町立大石田第一中学校

1 キャリア教育の視点から見た本校の現状

大石田は舟運で栄えた歴史的背景からか、地域には進取の気風、文化を重んじる風土があり、学校教育に対しての関心も高い。学校の教育レベルの向上を期待し、そのための協力を惜しまないなどの地域性がある。本校の生徒は全体として快活であり学習意欲、能力ともに高いレベルにある。また、高校進学後は大学に進学する生徒の割合も多い。このような地域で育っている生徒の、進路に対する関心には高いものがある。

瞬時のうちに全国的に情報が共有される社会の中で、生徒はバーチャルな社会観を持つようになってきており、「はたらくこと」について現実感が薄れてきていることもまた事実である。本校においては10年前から進路指導に特に力を入れており、1学年で職業調べ学習、2学年で2日間の職場体験学習と立志式などを行ってきた。

2 つけたい力

平成17年度に大石田町がキャリア・スタート・ウィーク推進地域の指定を受け、本校と同町の亀井田中学校とが連携し、5日間の職場体験を行うこととなった。そこで、これまでの実績をふまえながらも、特にキャリア教育の視点での見直しを行った。

(1) 人間関係を形成する基本的な能力の育成

人と接して生活するうえで、人間関係形成能力は実に大切な力である。家庭、学級、学年というせまい人間関係から出て、世間の他者との人間関係を形成するための基本的なノウハウを身につけさせる必要がある。

- ア 「自分を知る」ための適性検査を利用し、自分のよさや個性、課題に気づかせる。
- イ 「挨拶、礼、返事の仕方を知る」ことをめざし、基本動作をあらためて練習させる。
- ウ 「時刻を守る、連絡する」など相手に認められる作法、礼儀を教える。

(2) 情報を活用する能力の育成

進路学習の教材などを用い、職業の種類や特徴、資格要件等について調べることで、また、自らの職場体験で情報を得たり、理解を深めさせる必要がある。

- ア 進路指導資料「中学校生活と進路」等を活用し、職業について知識を得させる。
- イ 大石田町内と近隣の市等の商店、会社、農業、役所等の職業について調べさせる。
- ウ 体験を希望する職場に自分たちで事前に問い合わせ、有用な情報を得させる。

(3) 将来設計能力の育成

将来について漠然と考えている段階から一歩進めて、自分の適性について客観視させたり、職場体験を通し、より現実的に自分の将来を考えさせる必要がある。

- ア 修学旅行の企画として「職場訪問」を設定し、視野を広げさせる。
- イ 適性検査結果や友人との意見交換をもとに、自分に適する職業を考えさせる。

(4) 意思決定能力の育成

自分の将来についての複数の可能性を考えさせ、それに優先順位をつけたり、一つを選択したりするなど、意思決定の体験をなるべく多くさせる必要がある。

- ア 修学旅行先で訪問したい職場についての調査、手紙や電話での依頼や訪問日程調整など

を自分たちで行うなど、主体的に行わせる。

イ 2学年末に実施する「立志式」において、自分の将来についてのビジョンを具体的に考えて発表させる。

3 実践例

【推進地域（大石田町）の実践】

(1) 実行委員会の組織

名称を「大石田町キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」として具体化に向けて協議を行った。構成メンバーは、大石田町商工会会長、同商業部会長、同工業部会長、同建設部会長、大石田町ライオンズクラブ会長、大石田町建設業協会会長、大石田第一中学校校長、同PTA会長、同2学年委員長、亀井田中学校校長、同PTA会長、同2学年委員長、大石田町産業振興課課長、同保健福祉課課長、同教育委員会教育長、同管理課長の17名である。

(2) 実行委員会の内容

ア 第1回実行委員会議

- ・趣旨、実施要項、実施上の留意点、受け入れ先事業所、今後の予定等について

イ 第2回実行委員会議

- ・実施状況、事業所等への生徒の割振り、実施中の巡回、今後の予定等について

ウ 職場体験中の巡回指導

- ・巡回可能な委員が、分担して体験中の生徒の様子を見て回るとともに、受け入れ先の声を聞き、事業の成果や問題点を把握する。

エ 第3回実行委員会議（兼大石田第一中学校の職場体験発表会）

- ・大石田第一中学校2年生の職場体験発表を聞き、助言を行う。
- ・今年度の成果や来年度の職場体験のあり方について協議する。

【本校の実践】

(1) 平成16年度 1学年

進路学習資料「中学校生活と進路」等を活用したり、家族の仕事について調べるなど、職業や職業に関わることに学習。

(2) 平成17年度 2学年

（大石田町がキャリア・スタート・ウィーク推進地域に指定）

ア 大石田町キャリア・スタート・ウィーク実行委員会第1回実行委員会をうけて、本校と亀井田中学校の教頭及び2学年主任の打合せ会議を数回実施し、細案を作成。

- ・受け入れ可能な事業所等のリスト作成と依頼
- ・実施上の問題点の洗い出し
- ・受け入れ先に割り振る人数検討
- ・実施期間中の傷害保険等の検討

◎受け入れ先50カ所が決定

- ・実行委員会各委員と各校担当者が電話で依頼、または文書で依頼

イ 生徒に対するキャリア・スタート・ウィークのオリエンテーション実施

- ・5日間連続の職場体験学習であること
- ・受け入れ先の選択方法について

ウ 職場体験先希望調査の実施

エ 職場体験先決定（34カ所）

- ・希望者との相談で人数調整
- ・希望外の受け入れ先の場合、生徒へ指導

オ 職場体験の計画と準備

- ・2学年担当者と受け入れ先との打ち合わせ会議を実施（主として訪問）
- ・生徒への事前指導（話し方、依頼の仕方、聞く内容、お礼の言い方等）
- ・受け入れ先に生徒が電話連絡し、打ち合わせを実施
- ・生徒が打ち合わせた内容について担当者が確認し、補足指導

カ 職場体験の実施（期間）平成17年7月4日（月）～8日（金）

○生徒の主な勤務形態

- ・家庭から職場に出勤、勤務後帰宅、帰宅後にレポートの作成

○2学年担当者の動き

- ・授業の空いた時間を利用し、体験場所を分担し巡回、状況を把握

キ 職場体験後の指導

- ・礼状作成（礼状の書き方、文面の内容指導）と送付
- ・体験レポート作成
- ・アンケート実施と分析

◎大石田町キャリア・スタート・ウィーク実行委員会としての礼状送付とアンケート実施

ク キャリア・スタート・ウィーク体験発表会 平成17年10月27日（木）

- ・キャリア・スタート・ウィーク実行委員による助言
- ・1学年生徒も参加

ケ 立志式 平成18年2月23日（木）

- ・自己の将来設計について発表
- ・「生き方について学ぶ」講演 講師 大石田地福寺住職 宇野 全匡 氏



土木・建設



菓子製造



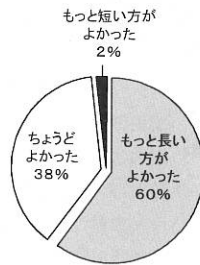
保 育



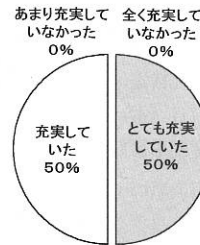
J R

(3) 生徒の評価 (アンケートから)

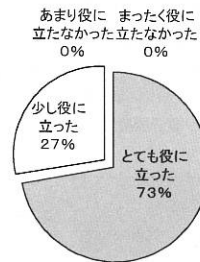
① 職場体験の期間については



③ 職場体験は充実していたか



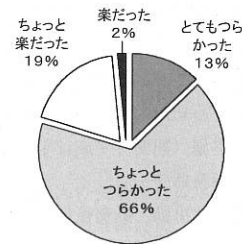
④ 職場体験は自分の役に立ったか



(4) 受け入れ先の評価 (評価カードから)

ア あいさつ	とてもよい	34%	よい	55%
	まずまず	11%	もっとがんばろう	0%
イ 言葉遣いや返事	とてもよい	31%	よい	53%
	まずまず	16%	もっとがんばろう	0%

② 職場体験の内容は



(感想)

- ・立ちっぱなし、しゃがみっぱなし
- ・きつい、同じ作業の繰り返し
- ・力仕事、食べ物などの後始末
- ・知らない人の中で5日間の仕事

(感想)

- ・今までできなかったことを体験できた
- ・任された仕事をしっかりできた
- ・職場の方が優しく親切だった
- ・人と触れ合ったり仲良くしたりできた
- ・人のために働いたと実感できた

(感想)

- ・知らなかったことをたくさん学んだ
- ・人との接し方や気配り・礼儀・マナーなどを学んだ
- ・将来を考える上で役立つことを学んだ
- ・夢ができた
- ・やりたい仕事・興味のある仕事を体験した
- ・仕事の大変さ、つらさ、厳しさ、楽しさ、すばらしさなどを学んだ
- ・裏方の大切さ、陰で働く人の存在を知った

ウ 服装や身支度	とてもよい	40%	よい	58%
	まずまず	2%	もっとがんばろう	0%
エ 仕事に取り組む姿勢	とてもよい	39%	よい	55%
	まずまず	6%	もっとがんばろう	0%
オ はじめと比べて成長は見えるか	大いに見える	34%	見える	61%
	変わりなし	5%	悪くなった	0%

(5) 保護者の評価 (アンケートから)

ア 職場体験について事前に話題になったか

よく話題になった	18%	少し話題になった	59%
ほとんどならなかった	16%	まったくならなかった	7%

- ・体験場所
- ・仕事の内容
- ・誰と一緒に
- ・本人の希望
- ・体験先の決め方
- ・選んだ理由
- ・体験期間
- ・挨拶、言葉遣い
- ・態度、心構え
- ・目標
- ・期待、不安
- ・通勤経路
- ・勉強は大丈夫か
- ・職場の選び方への不満

イ 職場体験について期間中に話題になったか

よく話題になった	43%	少し話題になった	43%
ほとんどならなかった	10%	まったくならなかった	4%

- ・仕事の内容や様子
- ・楽しかったこと
- ・大変だったこと
- ・職場の雰囲気
- ・次の日取り組むこと
- ・働くことの大変さ
- ・仕事をしての感想
- ・職場の様子
- ・職場の方のご指導やご好意
- ・他校生と仲良くなったか
- ・社長さんのこと
- ・最後までできそうか
- ・職場体験の意義

ウ 職場体験で子供に変化は見えただか

大きく変わった	11%	少し変わった	37%
ほとんど変わらなかった	46%	まったく変わらなかった	6%

- ・働くことの大変さ、つらさ、大切さがわかったようだ
- ・進んで手伝うようになった
- ・責任感、自信などを感じる
- ・親への感謝やいたわりが出てきた
- ・将来を考えている
- ・表情が穏やかになった
- ・表情が豊かになった
- ・大人への言葉遣いが良くなった
- ・お金の無駄遣いが減った
- ・朝、一人で起きて自分から挨拶するようになった
- ・昨日の今日でわかるものでもない。これから日々暮らして見たい
- ・まだ知っているところでの体験なので、甘えの部分もあったようだ
- ・少し職業に対する意識・感覚は持てたようだが、職業選択の判断体験となりうるかはわからない

エ 今回のような職場体験を2年生に実施することはどうか

とても有意義である	47%	少しは有意義である	43%
あまり有意義でない	10%	その他	0%

(6) 1年後の意識調査結果「キャリア・スタート・ウィークから1年たって」

- ア 職場体験後は、「自分もやがて職業人としてはたらくこと」について、以前より現実的に考えるようになりましたか

はい	50%	どちらかというとはい	50%
どちらかというといいえ	0%	いいえ	0%
イ 「はたらくために必要なこと」についてあなたが感じたことは何でしたか			
知識	8%	技能	8%
資格	8%	礼儀・マナー	21%
はたらく意欲	47%	人に接する技術	8%
ウ 職場体験後、自分の進路について以前より意欲的に考えるようになりましたか			
はい	36%	どちらかというとはい	54%
どちらかというといいえ	8%	いいえ	2%
エ 職業につくにあたって、中学校でしっかり学ぶ必要があると考える教科は何ですか			
国語	60%	社会	2%
数学	11%	理科	4%
英語	11%	音楽	2%
美術	2%	保健	2%
技・家	2%	道徳	2%
総合	2%		
オ 職場体験は進学したい高校を考えると役に立っていますか			
はい	17%	どちらかというとはい	37%
どちらかというといいえ	27%	いいえ	19%
カ 今は将来の職業につながる高校に進学したいと考えていますか			
はい	55%	どちらかというとはい	35%
どちらかというといいえ	10%	いいえ	0%

4 成果と課題

(1) 生徒の変容について

キャリア・スタート・ウィークにおいて、キャリア教育の観点から4つの能力の育成をめざしたが、おおむね良好な結果となった。

一つ目にあげた、人間関係を形成する能力の育成であるが、人間関係づくりの大切さを多くの生徒が実感しており、アンケートの回答の中にも「人との接し方」「礼儀・マナー」の大切さを学んだというものが多い。また、保護者の評価の中に、「子供の表情がよい、言葉遣いがよくなった」などの変容があげられていてこれらは生徒の成長を示しているものと考ええる。

7月に行った、実施から1年後の意識調査結果からも、人間関係をつくる技能が大切であるという認識が高いことが読み取れる。たとえば、職業につくにあたって「国語」をしっかり学ぶ必要があるとする生徒が多いことなどである。

二つ目として、情報を活用する能力の育成であるが、1学年時の進路学習において「職業調べ」等の活動をし、2学年で職場体験での実践的学習、レポート作成、発表等の表現活動を行う中で指導を続けてきた。礼状の書き方など、社会生活に有用な技能なども含め、基本的な能力は確実に育成されているものと考ええる。

三つ目の、将来設計能力の育成であるが、1年後の意識調査結果の①～③で意識程度が高いこと、⑥において職業を意識した高校選択を考える生徒が多いことなど、成果がでていて考えてよいのではないかと考える。

四つ目として、意思決定能力の育成について、はっきりとした成果としてはとらえられる

ものではないが、受け入れ先の評価から、生徒が職場に適応しようと努力した様子がうかがわれ、保護者の評価の中で、「進んで活動する」「責任感」「自信」などの文言が多くみられることから、自分なりに考え、判断し、行動しようとする生徒の姿が浮かび上がる。また、校内の学習や諸活動においても、以前よりずっと前向きに取り組むようになり、表情にも自信が感じられるようになってきた。

受け入れ先からいただいた感想に、本当に素直な気持ちで、一生懸命に生徒に関わり、迷いながら指導している様子が目に浮かぶものがあった。以下に紹介し、学校として、このような地域の方々の期待に応えられる教育を実践していきたい。

(2) 実行委員会について

キャリア・スタート・ウィークという5日間連続の職場体験学習の実施にあたり、大石田町では実施委員会を組織して基盤整備を行ったが、地域の理解と協力を得ることに大いに効果があった。次は、受け入れ先からの感想・意見である。

○働くことの意味や大切さを知ってもらうため重要だと考える。

○将来の大石田を担う子どもたちのために協力していきたい。

○子供か孫のようで楽しいし、若い人と一緒に元気になる。

○おかげで事務所内が久しぶりに緊張感にあふれ、初心にかえって仕事できた。

○体験することで得るものの大きさはよくわかるので、時期や人数、期間等、状況が合えばできる限り体験の場を提供したい。

○少しでも仕事に対する夢や楽しさを持ってもらえたらいいと思う。

○行政・学校・地域が連携し、地域の子どもたちに目的意識をもたせる意味では非常に良い機会。

○何もかも初めてのことなのによく頑張ったと思います。今の中学生はいいですね。自分たちの時はこんな学習なかったから、経験できなかったなあ。みんなで「体験学習あったら、どういう場所に行きたかった」なんて話していました。

△会社が不景気でそれどころではない。景気がよければいつでも受け入れます。

△一カ所5日間より、色々な事業所を経験した方がよい。

様々な感想や意見をいただいたが、全体として好意的で、協力的なものが多かった。

初心にかえる等の感想は、この取り組みが地域の活性化にもなっているととらえることができよう。ただ、5日間生徒を扱うことの困難さ、気遣いも相当なものであるし、売り上げ等に影響も出る可能性もあり、事前にきちんとした取り決めを行うことが大切であると考えている。

感想1

仕事に対してはとても意欲的で、自発的に取り組む姿勢が見られました。注意されたことにはとても素直で「すみません」という言葉がすぐ返ってきました。「ありがとうございます」という言葉も、とても素直に出ていました。食生活がきちんとしているのか疑問で、そのせいか体力がいま一つと思われましたが、5日間のはじめと終わりを比べると、5日間で明るくなったような気がしました。素直でとてもいい子で、育て方によってはとても伸びるような気がしました。

感想 2

今回の受け入れにあたり、どうしたら充実した5日間になるのか、厳しい方がいいのか楽しい方がいいのか、それとも普通でいいのか……その他いろいろ悩みました。はたらくことが基本なのに、このような授業をわざわざ取り入れなければならない社会もおかしいのかなとも思います（家庭で教えることだと思うので）。

物があふれ、もったいないという気持ちも薄れ、苦勞もしたくない人が増えている。やはり大人が変わらなければと思い、いろいろ考えさせられ、私自身も反省しました。今回お預かりした子どもさんはとてもしっかりした中学生で、ここでの5日間が本人のためになったのか少々不安ですが、よい経験でした。

3 高等学校

(1) 山形県立谷地高等学校

1 キャリア教育の視点から見た本校の現状

本校は河北町唯一の高等学校であり、今年度創立85周年を誇る伝統校である。しかし、今年度より商業科が募集停止となったため、各学年普通科3クラス、2・3年に商業科1クラス、生徒数は421名で、小規模な学校である。生徒の進路は国公立大学から、就職までと多岐にわたっており、概ね、就職する生徒は30名前後、進学する生徒は120名前後（大学30・短大20・専門学校70（うち看護医療系20））となっている。

本校で進学を希望する生徒はその多くが推薦入試を受験するが、就職試験であれ推薦入試であれ、必ずといっていいほど面接や小論文または作文が課される。しかし、3年次になって小論文や面接指導を行っても、ほとんどの生徒が適応できないのが実態である。そのため、最初は高い志を持っていた生徒も次第に目標を下げて、試験競争のない専門学校に流れたり、または事務系の第1希望の企業に合格できず、不本意ながら製造系の企業に回らざるを得なかったりする状況が生まれている。また、家庭での学習時間（平成17年度4月～9月までの上半期の毎日調査による）も、全校平均で試験期間前には2時間32分、平日は1時間01分というところである。学習を毎日2時間以上行っている生徒は全校で34名（7%）しかいない。

これらの点には以下の要因が考えられる。

- (1) 生徒自身の要因……本校に入学する生徒は、中学校の時にクラスで中位からやや下位の能力の者が多く、集団にうもれて目立たず、あまり手をかけてもらえなかったと思われる。そのため、主体的に行った体験・経験も少なく自分に対する自信がない生徒が多い。
- (2) 環境的な要因……本校は町内にある唯一の高校で、他校と交流する機会が少なく、教育活動や生活の中に広がりや刺激がなく、学習意欲の高揚と社会性の向上を図ることが難しい。
- (3) 学校側の要因……学年ではボランティア体験・企業訪問やインターンシップ等を企画・実施しているが、学年独自の取り組みとなっており学年間のつながりが希薄である。また、計画だけが最初にあって内容はその都度学年団で相談している等、3年間を見通した進路指導の中に位置づけられていない。

このような中で3年間の高校生活を送ってもなかなか力がつかず、前述のように小論文やセンター試験、あるいは公務員の一般教養問題に対して、大多数の生徒が歯が立たないという状況が生まれるのである。

2 つけたい力

上記のような現状を踏まえ、平成17年12月の職員研修会で進路指導課から「3年間を見通した進路指導のあり方」の問題提起がなされた。そして18年度より商業科が募集停止となり本校は普通科のみの高校となること、現在耐震化工事で体育館が改築されていることなど、本校を取り巻く状況も変化していることから、「新しい谷地高」像を掲げて、キャリア教育を取り入れた進路指導＝在り方生き方指導の推進を図るべきだという提言がなされ、教職員の共通理解の下に「総合学習検討委員会」が設置された。そこでの検討事項は、次の通りである。

- (1) 求める生徒像=生徒に身につけさせたい力を明確にする。
- (2) そのために3年間を見通した進路指導プランを構築する。
- (3) そのためにいつの時期に何をどのような方法で実践するかを協議する。
- (4) そのために本校に何が必要かを検討する。

さらに、3年間を見据えたキャリア教育を1年次から教育活動の一環として体系的に実施し、成果を上げている先進校を訪問し、そのノウハウを本校の実践に活かしたいと考え、2回の先進校視察を実施した。(17年12月に青森県立八戸東高等学校及び岩手県立遠野高等学校、18年3月に宮城県佐沼高等学校及び同県築館高等学校)その後、この事例をもとに、総合学習検討委員会を開催して本校で何ができるかできないかについて検討した結果、本高中生に身につけさせたい力は、受験を勝ち抜いていく力のみならず、「自分の人生をたくましく切り拓いていく力」であることを確認した。そのためには、進路指導を在り方生き方指導ととらえ、以下のような力を育成することが必要であると考えた。

- (1) 課題解決能力…①自分の考えをまとめる力、②継続してがんばる力・集中力、③自分の言葉で自分を表現する力、④意欲を持って、主体的、積極的に取り組む力、⑤考えたことを行動に移す力
- (2) 社会的なマナー…①正しい礼儀・服装・言葉遣いをする力、②ルール(校則・社会的マナー)を遵守する力、③時間を守る力、④人の話を聞く力
- (3) 教科学力…確かな学力

次に、3年間の生徒の生活の流れを見通し、そこに進路指導がどう展開されるべきかという進路シラバスを作成した上で、どのようなメニューをどの時期にプランニングするかを検討し、目標とプログラムを作成した。(3. 実践例と、添付資料参照)また、実際の授業時間数については、年度始めに「総合」の時間とLHRの時間をすべて抜き出し、それぞれのメニューの時間数を調整したり、学校行事として授業を代替して実施したり(一日総合大学など)、長期休業中に実施したり(インターンシップ・オープンキャンパス・企業訪問など)と、時間を確保することに努めた。

本校では、このキャリア教育を取り入れた3年間を見通した進路指導プログラムを『遠嶺タイム』と名づけた。「遠嶺(とおみね)」とは本校の校歌(丸山薫作詞)の中の、広義には広野をめぐる山々を表す言葉であり、具体的には葉山を指す。生徒の理想の姿を遠嶺に重ね、今は遠くに見えるけれど、一步一步着実に峠を登り、3年後には頂に立って、人生をたくましく切り拓く力を身につけて欲しいという願いを込めた。

3 実践例

*キャリア教育における4領域の能力は、実践内容における①～④で表記した。

- ① 人間関係形成能力 ② 情報活用能力 ③ 将来設計能力 ④ 意思決定能力

- (1) 第1学年…目標：① 自己の在り方生き方や進路について考え、より良い進路選択をすることができる。
- ② さまざまな体験を通して、より良い社会人としての人生観・職業観を養うことができる。
- ③ 幅広い視点で物事を見、考える力、自分の言葉でまとめ表現する力を身につけ、生涯にわたって学び続ける意欲や態度を養うことができる。

① 導入期の指導

ア 目的：谷地高生としての資質を身に付けさせるとともに、早期に進路意識を持たせ、学習習慣の定着を図る。

イ 実践内容：将来の夢(作文)③④、マナー・服装指導①、授業の受け方、進路講演会③④、校歌練習等

② 職業研究

ア 目的：職業についての調べ学習や、適性検査を通して、自分の将来について考え、より良い進路選択ができるようにする。

イ 実践内容：職業研究②③、適性検査③④

③ 谷地学

ア 目的：地域に学習題材を求め、それぞれの道の先輩から人生観や職業観を学ぶことにより、自己の在り方生き方を考える。「谷地学ゼミナール」(一日総合大学)では、谷地学を深化させ、よりグローバルな視点からのものの見方や考え方を養成する。

地域や大学との連携を強め、「開かれた学校づくり」の一助とする。

イ 実践内容：外部講師講演会③④、谷地学ゼミナール(一日総合大学)③④

④ NIE

ア 目的：新聞を読むことを通して、社会に目を向け、「生きた社会」を学び、幅広い視点でものを見たり考えたりする力を養成する。また、自ら記事を選び、まとめ、発表することによって、言語能力を育成する。

イ 実践内容：NIE講演会(外部講師)②④、新聞要約と感想②④、グループでの合評会と発表会①④

⑤ ボランティア体験学習

ア 目的：地域でのボランティア活動を通して、勤労意欲やボランティア精神を高める。また、地域に貢献することで、地域とのつながりを深める。

イ 実践内容：クラスごとにグループに分かれ、ボランティア体験学習①③、お礼状作成①④

⑥ ライフプランの作成

ア 目的：自己の将来像を描きながら、2年次に向けて、進路について考える。

イ 実践内容：ライフプランの作成③④、ライフプランの発表と文集づくり①②④

⑦ 企業訪問

ア 目的：企業を訪問し、インタビューなどを行うことで、職業観・勤労観を育成し、進路に対する意識の高揚を図る。

イ 実践内容：企業訪問ガイダンス、事前学習とマナー指導①②、企業訪問（春休み中に実施）①②④

(2) 第2学年…目標：① 自己の在り方生き方や進路について考え、深めることができる

② 自分の進路や興味・関心に応じて課題を見つけ、見聞を広げ、知識を深化させるとともに、より良く課題を解決する能力を身につけることができる。

③ 「話を聞く力」「資料を収集・分析する力」「文章を書く力」「発表する力」を身につけ、生涯にわたって学び続ける意欲や態度を養うことができる。

① 導入期の指導

ア 目的：谷地高生としての資質を身に付けさせるとともに、早期に進路意識を持たせ、学習習慣の定着を図る

イ 実践内容：マナー・服装指導①、授業の受け方、進路講演会③④、校歌練習等

② 進路研究

ア 目的：進路についての調べ学習を通して、自分の進路についての理解を深め、将来について考え、より良い進路選択ができるようにする。オープンキャンパスやインターンシップによって、進路についての理解を深め、職業観を養う。

イ 実践内容：進路ガイダンス③④、進路調べ学習②③、オープンキャンパス①③④、インターンシップ①③④

③ 谷地学

ア 目的：地域に学習題材を求め、それぞれの道の先輩から人生観や職業観を学ぶことにより、自己の在り方生き方を考える。郷土に対する興味・関心を高めながら、地域の問題を通して「自ら課題を見つけ、自ら考え、問題を解決していく力」を養成する。「谷地学ゼミナール」（一日総合大学）では、谷地学を深化させ、よりグローバルな視点からのものの見方や考え方を養成する。

地域や大学との連携を強め、「開かれた学校づくり」の一助とする。

イ 実践内容：外部講師による講演会②、谷地についての課題発見と取材・提言①②③④、発表会①④、谷地学ゼミナール（一日総合大学）②④

④ 小論文

ア 目的：知識やものの見方考え方を豊かにし、受験に対応できる力を養う。

イ 実践内容：小論文ガイダンス（外部講師）②④、小論文ノート②

⑤ 模擬面接

ア 目的：入退室の仕方や、マナー、適切な言葉遣いを身につけるとともに、コミュニケーション能力を養い、入試の面接に対応できる力を養う。「面接ノ

ト」作成を通して、自己や進路について見つめ、理解を深める。

イ 実践内容：模擬面接①④

⑥ NIE

ア 目的：新聞を読むことを通して、社会に目を向け、「生きた社会」を学び、幅広い視点でものを見たり考えたりする力を養成する。また、自ら記事を選び、まとめ、発表することによって、言語能力を育成する。

イ 実践内容：NIE講演会（外部講師）②、新聞要約と感想②④、グループで討論会①④、新聞投稿②④

(3) 第3学年…目標：① 自己の在り方生き方について考え、進路目標実現に向かって努力することができる。

② 問題意識を持って社会に目を向け、自分の考えを持ち、論理的に述べる力を身につけることができる。

① 導入期の指導

ア 目的：谷地高生としてふさわしい資質を身につけるとともに、進路意識を高め、学習習慣の更なる定着を図る。

イ 実践内容：進路講演会③④、マナー・服装指導①、授業の受け方、校歌練習等

② 小論文

ア 目的：「小論文ノート」で知識やものの見方考え方を豊かにし、受験に対応できる力を養う。合評会を通して他者の意見にふれ、自己の考えを深める。

イ 実践内容：小論文ガイダンス（外部講師）②③④、小論文模試④、小論文ノート④、小論文合評会①②④

③ 模擬面接

ア 目的：入退室の仕方や、マナー、適切な言葉遣いを身につけるとともに、コミュニケーション能力を養い、入試の面接に対応できる力を養う。「面接ノート」や志望理由書の作成を通して、自己や進路について見つめ、理解を深めながら、入試に対応できるようにする。

イ 実践内容：面接ノート②④、志望理由書作成③④、模擬面接（進路ごと）①④

(4) その他

ア 3学年共通：学校見学会①②③④、教育実習生の話を聞く会③④、先輩の進路体験を聞く会③④、進路別ガイダンス②③④、保護者向け進路講話等

イ 新聞を読める環境作り：地元の販売所の協力で一日遅れの新聞を無料で3部いただいている。町で組織している谷地高等学校教育振興会より新聞閲覧台を3台購入していただき、校舎各階の教室前等に設置して、生徒がいつも新聞に接することができる環境作りを心がけている。これとは別に今年度から2年間、本校は県NIE実践校に指定され、4カ月間毎日新聞8紙が届けられ、閲覧できる。

ウ 副教材の作成：1学年用「遠嶺タイムの手引き」、2学年用「遠嶺タイムの手引き」、3学年用「面接なんか怖くない」を作成して活用している。

4 成果と課題

本校では、これまでキャリア教育を行ってきたが、3年間を見通したキャリア教育を取り入れた進路指導（『遠嶺タイム』）は、今年度から始まったため、現段階ではまだ実践途中であり、3年間を通した評価ができるのは3年後になる。しかし、一つのプログラムが終了した時点での振り返りと評価は必要であり、次の取り組みや次年度の実践に向けて検討し、10月の校内での中間反省会に向けて総括を行っている。現段階の成果として挙げられることは、生徒の意識に変容が見られたということである。例えば、①これまで、進路について強く意識し、考えるようになる時期は3年生になってからであったのに対し、現在は、1、2年生のうちから自分の将来や進路について良く考え、調べるようになった。②外部講師を招いての講演会を多く取り入れていることで、人の話を聞く姿勢や、メモをとり自分の考えや感想を書くという習慣が確立されつつあり、生徒自身が見聞の広がりや知識の深まりを自覚できるようになった。③グループ活動やクラスでの発表などを通し、徐々に自己を表現することに抵抗がなくなってきた。④校外活動で外部の方と接することにより、コミュニケーション能力（電話応対、インタビュー等）が高まった。⑤新聞を読む習慣が身につき始め、社会に眼を向けられるようになった、などが挙げられる。さらにこれらを総合しての現象であろうが⑥家庭学習時間が昨年度より平日、試験前とも約50%増加した。（本年度1学期調査（全校平均）平日：1時間32分・試験前：3時間55分）以上のような、新しい変化の萌芽は見られるものの、学校生活全般において生徒自身主体的な姿勢や行動が身についたかと言えば、まだまだ未熟であり、受動的で自己に対する自信のなさがかえりくることが多い。

今後の課題としては、①進路指導におけるキャリア教育で育んだ力を、出口指導の実績にいかにか効率よく結び付けていくか、という点、また、②キャリア教育に対する取り組みが3年間を見通してプログラムされているのは進路情報部のみであり、進路指導以外の、教育活動全体としての位置づけが明確化されておらず、他との連携が希薄である等の点が挙げられる。今後、他の部署（教務部・生徒保健部）や学年、教科におけるプログラムやシラバスも検討していく必要があろう。そして相互に連携を図りながら、さまざまな角度・切り口で組織的・計画的にキャリア教育を進め、生徒のより良い将来につなげたいと考えている。

(2) 山形県立荒砥高等学校

1 キャリア教育の視点から見た学校の現状

本校は、普通科各学年2クラス（1学年70名、2学年43名、3学年66名）の小規模校である。白鷹町の中心に位置し、町内唯一の高校として地域に根ざした学校を模索している。生徒の進路希望は、幅広く、概ね就職と進学とが半数ずつという状況で、カリキュラムにおいても、コース制の選択科目を取り入れて、生徒の多様な進路希望を達成できるように配慮している。

本校の生徒は、与えられた課題に対してしっかり取り組む素直さと真面目さをもっているが、自信をもって自己表現することが苦手な面ももっている。また、一般的に言われている早期就職の問題は、本校も例外でない。その背景には、就職活動に直面するまでの間、職業や産業の実際に接し、働くことの意味を考える経験に乏しいことや、将来の職業生活に対する認識や価値観が未熟であること等があると考えらる。企業からも、新規高卒者に対して、勤労観・職業観の希薄さ、基本的な生活態度や言葉遣い、一般常識・教養に欠けるなど厳しい指摘があることも事実である。

このような状況のなかにあつて、本校では主体的な職業選択能力や、職業意識の育成が図られるよう社会体験学習の必要性を積極的に検討し、平成13年度より2年生においてインターシップを実施している。平成16年度からは、白鷹町が文科省より「キャリア教育推進地域」の指定を受けたことにより、推進校として小中学校と連絡をとり、また、家庭や地域の協力を得て、これまでの実践をキャリア教育の視点から見直して

2 つけたい力

生徒自身が、自分の将来と真剣に向き合い、不透明な社会を生き抜くために「何を大切にしたいか、どう生きるか」について考える力を育てたい。そのためには、授業を中心に据えて、基礎学力を定着させることが基本と考え、更に多くの機会を提供して、互いに認め合い、積極的に係りを持つ心を育て、困難を乗り越えられる強さを養わせたいと考える。また、社会のルールを尊重する心と、円滑なコミュニケーションができる能力を育てたい。「つけたい力」をキャリア教育の4領域の視点から、次のようにまとめた。

- ・人間関係形成能力（豊かな教養と豊富な知識、コミュニケーション能力、自己理解と自己向上意欲、あいさつ・マナー・人間力、規範意識・正義感）
- ・情報活用能力（基礎基本の定着、情報収集・整理能力、生きる力・常識的判断力）
- ・将来設計能力（地域社会人との交歓・交流、外部評価の実施と修正、自己の将来の生き方設計、コミュニケーション能力）
- ・意思決定能力（進路選択能力、5日間の職場体験学習、自己の能力・適性の発見、課題解決能力と自己実現）

3 実践例

前述した「つけたい力」を実現するために、本校では様々な取り組みを行っている。キャリア教育の4領域の能力を育成するための視点から整理すると次のようになる。

	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
1 年 次	適性テスト 科目の選択	外部講師のマナー講習 進路ガイダンス 選択科目の説明	企業見学会 社会見学 選択科目の決定	職業調べ 職業適性テスト
2 年 次	二者面談 選択科目の履修 コース制の選択 職場体験学習	外部講師のマナー講習 進路ガイダンス コース制の説明 職場体験学習	進路ガイダンス コース制の決定	職場体験学習 (インターンシップ) 職場体験学習発表会
3 年 次	三者面談 コース制の学び	外部講師のマナー講習 面接指導 小論文指導 進路ガイダンス	進路ガイダンス コース制の学び	進路ガイダンス 職場体験

以上の教育実践の中で、その核になるのは2年次に行われる5日間の職場体験学習である。
以下では、平成17年度の職場体験学習（インターンシップ）の実践例を紹介する。

(1) 指導経過と反省

第2学年（67名）「総合的な学習の時間」において実施

口 程	内 容	経 過 と 反 省 等
〈1学期〉 6/22（水）	職場体験ガイダンス①	・LHR（1h）で概略説明と事前アンケートの記入（進路希望、体験希望分野と理由、具体的な事業所）
7/13（水）	職場体験ガイダンス②	・職場体験学習の趣旨及び目的について
7/上～下旬	生徒の配属先の調整と決定	・希望職種の調査後、第2希望等をもとに調整。
〈2学期〉 9/7（水）	マナー講習 (職場体験に向けて)	・講師(株)セゾンファクトリー取締役総務部長林崎氏の講話。
9/14（水）	職場体験ガイダンス③	・実習口誌を配布し、心構え等の諸注意。
9/20（火）	職場体験直前指導④	・直前指導、激励、生徒決意表明
9/21（水） ～28（水）	職場体験学習、巡回指導	・事前に巡回指導割り当てを作成、巡回指導は期間中2回行う。生徒の様子を聞くと共に写真記録。
9/29（木）	実習口誌回収、職場体験学習のまとめ（感想文原稿作成・アンケート記入、礼状作成）	・昨年の反省により1日6時間を事後指導に充てる。口誌の整理、アンケート回答、記録感想文のまとめ、礼状作成など。
〈3学期〉 2月上旬 2/18（上）	体験学習の感想文集発刊 体験学習発表会 関係者（協力団体、事業所）と学校側との反省会	・保護者、地域の方へも案内する。 ・発表会後に同センター研修室にて実施。

(2) アンケート集計結果〔2年生 67名〕

- ア とても（おおいに）あった（できた） イ まあまああった（できた）
ウ あまりなかった（できなかった） エ まったくなかった（できなかった）
- ① 5日間の体験をすることで充実感や自分なりの学びなど得るものはありましたか。
→ ア（52.2%） イ（46.3%） ウ（1.5%） エ（0.0%）
- ② 体験を通して、働くことの喜びや大変さを感じ取ることができましたか。
→ ア（73.1%） イ（22.4%） ウ（3.0%） エ（1.5%）
- ③ 体験を通して、自分の将来の職業について考えましたか。
→ ア（47.8%） イ（41.8%） ウ（10.4%） エ（0.0%）
- ④ 体験を通して、挨拶や言葉遣い、身だしなみなどマナーやルールの大切さについて学ぶことができましたか。
→ ア（73.1%） イ（25.4%） ウ（1.5%） エ（0.0%）
- ⑤ 5日間の体験を通して、その職業に対する理解が深まりましたか。
→ ア（59.7%） イ（34.3%） ウ（4.5%） エ（1.5%）
- ⑥ 職場や地域の方々との交流を通して今後の自分の生き方の参考となることはありましたか。
→ ア（50.7%） イ（43.3%） ウ（4.5%） エ（1.5%）
- ⑦ 事前打合せや実際の体験を通して、校外に出て学習する時のマナーやルールを学ぶことができましたか。
→ ア（65.7%） イ（31.3%） ウ（3.0%） エ（0.0%）
- ⑧ 体験の中で、自分の仕事に対して責任を持ち、最後までやり通すことができましたか。
→ ア（74.6%） イ（25.4%） ウ（0.0%） エ（0.0%）
- ⑨ 体験時の出勤時刻を守ることができましたか。
→ ア（79.1%） イ（19.4%） ウ（1.5%） エ（0.0%）
- ⑩ 職場の方々との挨拶はよくできましたか。
→ ア（58.2%） イ（35.8%） ウ（6.0%） エ（0.0%）
- ⑪ 自分が取り組む仕事などについて、体験前や体験期間中に家族と話し合いましたか。
→ ア（35.8%） イ（43.3%） ウ（13.4%） エ（7.5%）

3 成果と留意点

次は、5日間の職場体験を終えた生徒の感想である。「今まではただ働くという考えだったが、そこに自分の好きなことをあてはめて、それを長く続けていくことが大切だと思った。」「一人ひとりの責任が重く、一人ひとりが仕事の部分だと思った。」「あいさつに対して気をつけていること。基本的なことが大切だと分かった。」「家族が子どもたちのために一生懸命働いてくれているということを頭に入れて生活していきたい。」などである。

このような感想を持つことができたことは、職場体験学習の体験をととして生徒がより大きく成長していることを裏付けるものといえる。職場体験学習の成果を次のように整理することができた。

- (1) イメージとして思い描いていた仕事から一歩現実に近づき、実際の職場において仕事に取

り組むことで、外からではなかなか思いが至らない苦勞や達成感に気づくことができた。そのことにより、自分の進路に向けて真剣に、かつ具体的に考える機会になったと思われる。そして、その目標に近づくために今からすべきことを考え、日常の学習を振り返ることができたようである。

- (2) 職場の一員として、仕事をとおして大人と会話をする（大人と時間を共有する）ことで、自分が認められているという感覚を持つことができたようである。そこから自分自身に自信を持つことができるようになり、その自信が、他人の話を素直に受け入れること、挨拶・言葉づかい・身だしなみの大切さ等に気づく基礎になっているように感じられる。
- (3) 家族に対する感謝の気持ちと、地域の優しさと期待を感じることができた。日常生活の中で忘れがちな、家族、地域、学校も含めた社会のつながりの中で自分自身が存在し生活していることをあらためて考える機会となったようである。このことは、今後の生活において困難に直面したとき、それを前向きに乗り越えるために自分自身を支える大きな力になるものといえる。

職場体験学習は、アルバイトと異なり目的意識をもって参加することが重要となる。したがって、事前の学習、生徒の意識付け、実習現場での適切な指導、そして、学校に戻ってからの事後指導の連携が大切である。本校では、実践例で述べた事前事後指導を行った。それらをとおして、生徒が大人と話し、共有できる時間を持てるようにし、地域社会から見られている、期待されているという実感を持たせられるように留意することでより多くの成果を得ることができるのではないだろうか。

最後になるが、キャリア教育という視点から捉えた場合、様々な取り組みが断片的なものにならないように配慮することが大切となる。本校の場合、2年次5日間の職場体験学習がその中心になるが、実践例で示した各学年での取り組みも全体としてつながりを持たせるものになければならない。職場体験学習の事前事後指導、更には1年次からの指導をどのように2年次につなげ、3年次の進路選択へ向かわせるかを整理し、検討していくことが今後の課題と言える。

(3) 酒田市立酒田中央高等学校

1 キャリア教育の視点から見た学校の現状

酒田中央高校は昭和15年開学以来、女子を中心にした指導を伝承してきた。各学年の定員は200名で、6割が進学、4割が就職という進路指導においては多岐にわたる高校である。進学希望の生徒も上級学校進学後は就職して社会の一員として就労することになるため、就職希望者だけにとどまらない進路のための学習を入学時から取り組んでいる。

本校の就職希望者は全員女子生徒であり、販売・サービス職種への希望者が多い現状である。事務のOA化に伴う人員削減、男女雇用均等法による製造職の勤務就労時間帯の多様化、派遣社員や契約社員による雇用場所の狭義化などの課題を抱えながら、日々キャリア教育を実践している現状である。そのためガイダンス機能の充実に重点を置き、1年次の全員対象の各種進路講話、2年次前半の全員対象の進路講話と後半の個別ガイダンスや模擬授業、3年次の進路の日や各種スキルアップのための講座、面接対策・小論文対策など全職員協力のもと、個々の生徒のために取り組んでいる。

就職については経済状況の沈下に伴い、生徒のためのガイダンスや情報提供を行っても、生徒が希望する職種や企業からの求人が無い現実の中で、日々葛藤している状況である。

2 つけたい力

- (1) 人間関係形成能力育成のためのキャリア教育として、社会の中で生き抜くための事前指導である「あいさつ」の重要性を訴え、コミュニケーション能力の第一歩に位置づけ実践している。そこで他の存在を認めることなしに挨拶は存在しないため、他人を認識し、理解し受け入れる環境作りへの指導に重点を置いている。
- (2) 情報活用能力育成のためのキャリア教育として、職業観なくして社会生活は考えられないため、1年次に学校主催（全員）で職業理解のための情報を提供し、実践する場としてのインターンシップを実施し、2年次には酒田市商工港湾課主催（希望者）でのインターンシップを行っている。勤務条件は8時間労働を受け入れ先にお願ひし、終日働くことの楽しさと辛さとの両面に光を当てた事後指導を実施している。
- (3) 社会に出て働く目的や誰のために働くのかを意識していない生徒は、仕事に喜びを感じることができないため早期離職している。将来設計能力育成のためのキャリア教育として、その現実を伝え、給与中心に就職を考えるより、「働く＝はたを楽にする」という基本を肌身で感じ、自分の仕事や人生の数年後を考えさせる機会を与え、志望動機や自己PRの一部に加えるための指導をしている。
- (4) 意思決定能力育成のためのキャリア教育として、多種多様な情報を精選し、他との比較検討により、自己決定を促すためのヒントを周囲が与える雰囲気づくりに努めている。そのために自ら課題を設定し、周囲の大人の話に耳を傾けるという聞く姿勢の重要性を感じさせ、後悔しない選択をできる指導を意識して取り組んでいる。



各学年の進路指導目標・指導内容		
第1学年(職業理解)	第2学年(自己理解)	第3学年(自己実現)
制度で居る正しい学校生活を送らせ、日々の学習や特別活動に主体的・積極的に取り組ませることにより、調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。 ①進路希望の早期確立のために、進路に関する情報を適切に伝え、自己の進路への意識を高め、進路目標を具体化する。 ②進路希望実現のための指導を充実させ、さまざまな環境での進路学習により、自己理解を深めさせながら、能力と個性にあった志望進路を早期に確立させる。 進路オリエンテーション 進路ガイダンス 進路希望調査 進路相談	進路希望実現のため、次年度を見通した計画的な進路指導計画のもとでの様々な活動の中で進路意識を高める。 ①進路に関する情報を自ら調べ、自己理解・自己分析により自分に対する進路に対する意識を高める。 ②進路希望を実現した様々な進路学習・活動を通して、将来の自分の夢を実現するための準備をしておく姿勢を養う。 進路オリエンテーション 進路ガイダンス 進路希望調査 進路相談	自己の進路目標達成のための積極的な取り組みができる生徒の育成を図る。 ①進路希望達成のための情報を適切に提供し、進路に対する意識を高める。 ②進路学習・活動を通して、進路希望達成に向けて主体的・自主的に取り組む姿勢を養う。 進路オリエンテーション 進路ガイダンス 進路希望調査 進路相談

各教科・科目	特 別	活 動	総合的な学習	その他の教育活動
普通教育・専門教育・学校設定科目	H・R活動	生徒会活動	学校行事	
・基礎基本を習得し一般常識を身につけた生徒を育てるため、日常の学習を徹底的に行わせる。 ・各教科の目標を理解し、主体的に学ぶ力を育てる。 ・進路調査やグループ学習など、様々な学習活動を通じて、必要となる能力や態度を身に付ける。 ・人間関係の構築に努め、自己の個性や能力を伸ばす機会を創出する。	・学校生活の一員としての自覚を持ち、明るい態度で接する態度を育てる。 ・計画的な学習方法を習得させ、自己学習能力の向上を図る。 ・夢や希望の持てる進路選択ができる力を育てる。 ・悩みや課題を克服して、自己実現に努める態度を育てる。 ・学級活動には責任を持って取り組み、他人のために尽くす心をもてる。	・委員会活動を通して、自らの役割を自覚し、責任を持って取り組む態度を育てる。 ・自分の長所を伸ばすために、活動に積極的に取り組む姿勢を育てる。 ・生徒会リーダーに協力する心を持って、委員としての責任を自覚し、活動に取り組む態度を育てる。 ・年次活動に関心を持って、活動に取り組む態度を育てる。 ・自分の長所を伸ばすために、活動に積極的に取り組む姿勢を育てる。 ・学級活動には責任を持って取り組み、他人のために尽くす心をもてる。	・進路学習・活動を通して、進路希望達成に向けて主体的・自主的に取り組む姿勢を養う。 ・自己の在り方生き方を考えることができる姿勢を育てる。 ・進路学習・活動を通して、進路希望達成に向けて主体的・自主的に取り組む姿勢を養う。 ・自己の在り方生き方を考えることができる姿勢を育てる。 ・進路学習・活動を通して、進路希望達成に向けて主体的・自主的に取り組む姿勢を養う。 ・自己の在り方生き方を考えることができる姿勢を育てる。	・社会福祉施設等においてボランティア活動を行い、社会への貢献の大切さを理解させる。 ・企業において職業体験活動(インターンシップ)を行うことによって、働くことの意義を理解させる。 ・希望進路に関する情報や文化に関する活動を行うことによって、進路希望の達成に向けての準備をさせる。 ・自己の在り方生き方を考えることができる姿勢を育てる。 ・進路学習・活動を通して、進路希望達成に向けて主体的・自主的に取り組む姿勢を養う。 ・自己の在り方生き方を考えることができる姿勢を育てる。 ・進路学習・活動を通して、進路希望達成に向けて主体的・自主的に取り組む姿勢を養う。 ・自己の在り方生き方を考えることができる姿勢を育てる。

3 実践例

I 就職希望者のために……就労体験に焦点を当てて

(1) 1 年 次

年間を通じてキャリア教育のガイダンス等を実施しているが、1年次の生徒が外部の協力を得て実体験する場合はインターンシップと考え、2年生の修学旅行中に生徒の要望から市内希望企業・業種をお願いして実施している。

(2) 2 年 次

厚生労働省が推進しているジョブパスポートの記入欄にインターンシップの項目があり、1回だけの狭い浅い経験より、2年次は高校卒業したらすぐ働ける職場に焦点を絞り、酒田市商工港湾課の協力を得て、希望生徒対象に今年度から実施した。準備は校内外の方々と連絡を密に取りながら、計画通りに進めることができた。生徒のためにという思いが一致した成果であろうと考えられる。

受け入れ企業リスト生徒提示(7/7)→就職希望生徒参加申込(7/13)→校内ガイダンス(7/20)→事前セミナー(8/2)→インターンシップ(8/7~9)→事後セミナー(8/17)

12月に学校主催のガイダンスを計画しており、就職受験の9カ月前という自覚を持たせるためである。上級生の就職内定状況と進学合格状況の中間報告も兼ねている。

(3) 3 年 次

3年生は就職希望者が自己選択して、社会に巣立つために手続きや就職試験を受ける準備を始める。6月のガイダンスは試験の3カ月前で、自分の意思表示を明確にできる生徒には情報が集まり、受験の準備を進めることができることを指導し、自分の将来を見据えた選択をするように全職員でのアドバイスしている。

(4) 卒業生と語る会

毎年6月に、2・3年生を対象にした、卒業生と語る会を実施しており、地元で働く卒業生8名から来てもらい、今の仕事につくまでの経過、仕事の楽しさや辛さ、社会的責任などについて、語ってもらっています。事前に尋ねたい内容を連絡し、そのことについても答えてもらい、生徒へ実体験に基づいた貴重な情報を提供してもらっている。

(5) 外部機関との連携

山形労働局、ハローワーク、若者就職支援センター、庄内支庁商工観光労働課、酒田市商工港湾課、民間ガイダンス業者、酒田市商工会議所、各地区商工会、県教育委員会、市教育委員会などからの情報を生徒に伝え、高校生のために支援してくれている情報提供の場に参加するように促している。

II 進学希望者のために……ガイダンス機能の充実と生徒の取り組み

進学希望の生徒は学習指導と進路指導との密接な関係の中で、総合的な学習の時間を活用して、進路についての積極的な取り組みをしている。

(1) 1 年 次

高校在学中に取得する資格検定や進学後に取得する国家資格等について調べる。そして進学したい上級学校の学科や授業料等の経済的内容、自宅を離れての生活など、全生徒に外部講師の協力を得て行っている。①資格についてのガイダンス、②大学・短大についての講話、③専門学校についての講話、④看護医療についての講話、⑤小論文・作文・面接のための準備開始、という内容を年間の計画の中に盛り込んでいる。

(2) 2 年 次

本校に入学した生徒は、地区内の他校の生徒に比べ学力が伴っていない生徒が多いため、基礎学力の定着を目的にしている。目標を見失いがちな2年生の指導では、1年次と重複する内容を再度確認させ、さらに自己分析を加えることで、進学意識を高める指導をしている。①卒業生の進路研究、②上級学校講師による模擬授業、③自己分析、に重点をおいて取り組んでいる。

(3) 3 年 次

毎月末に進路希望調査を実施し、具体的記述の中で自己の進路希望の変容を履歴として捉え、後半は入試日程を具体的に把握させることで、自己の健康管理にも気を配るように指導している。6月の「進路の日」は、自分の進路目標を達成するための具体的手だてと、各自の目指している学校が自分のキャリアプランの中で機能する学校かどうかを判断させる機会を与えている。特に未認可校への入学希望者に関しては社会の受入が甘くない現実を告げ、安易な進路決定をしないように指導している。また飛行機やJR、バスという公共交通機関の利用方法や、学割、スカイメート、各種バックツアーなどの情報を提供し、オープンキャンパスに積極的に参加する手だてを具体的に示している。

(4) 朝読書と朝テスト

学習に臨む姿勢と基礎学力の定着が本校の重要な課題のため、週4日間の朝の時間帯を朝読書に充てている。各自が、自分の読みたい本を読むことによって脳を活性化させ、一日の授業を落ち着いた気持ちで受けるというねらいがあり、教員も各教室で生徒と一緒に読書する姿が見られる。また、毎週水曜日には、国語、数学、英語の朝テストをローテーションで行い、定期的に家庭学習の時間が増えることをねらいとしている。

(5) 小論文・作文対策

各種ガイダンスや講話の実施後毎回、生徒には感想を書かせ、外部講師に生徒の声を伝えている。他人が読むための文を書くことで文字の大きさや美しさ、表現に注意を払うようになる。また、3年次には全職員が、新聞記事から時事についての話題や各進学先に関連する業界用語について的小論文指導などの個別指導を行っている。論の構成の指導や自分の考えを相手に伝える表現を通して、生徒の志望動機が固まってくる。相手に自分の気持ちを伝えるための手段に、いろいろな伝達方法があることを体験している。

(6) 面接指導

多様化する入試形態の変容に伴い、推薦入試やAO入試には面接試験が避けて通れない状況になっている。つまりコミュニケーション能力の育成が不可欠である。自分に自信を持ち、自分の考えを伝え、自分の夢を語れるように自己PRと自己紹介の違いを理解しながら、保護者や全職員の協力を得て生徒が積極的に面接練習に参加している。笑顔が相手との距離感

を縮める最適な手段であることを理解する生徒が多い。

(7) 上級学校合格報告会

卒業を前に、各分野の上級学校に合格した3年生が、下級生に報告する会を行っている。自分の過去をありのままに後輩に語り、後輩の感じている不安を和らげ、合格するためには基礎学力も必要であることを告げている。将来、希望の職業に就くためには、進学しなくてはいけない必要感を伝えることで、下級生は自分の将来像を具体的に考え始めるようである。

(8) 外部ガイダンス業者

個人情報の外部への流出を避けるために、講演や講話の依頼は全て進路部が行っている。外部業者は個人情報を求めいろいろな企画をもってくるが、学校が生徒を守る姿勢で取り組み、広告と情報の区別がつかなくなってしまう生徒の危険性を回避するためである。

(9) 外部模試

上級学校に進学するために自分の学力の実態を把握するために、外部模試を週末を利用して行っている。判定資料は厳しい現実を伝えてくれるため、上級学校進学後に学力で困らないためにアドバイスに耳を傾けるようになる。不得意な科目を敬遠している生徒は教科担任に質問に行く機会が増えるため、外部模試はやる気を起こす起爆剤となっている。

(10) 「あきのなべ」……進路部が毎回生徒に伝えるキーワード

あ……挨拶→日常的に挨拶することができる人は、笑顔で挨拶できるようになる。
き……聞く→人の話を聞けない生徒は必ず失敗する。周囲は大切なことを伝えている。
の……ノンストップ→立ち止まらない・欠席しない・前進あるのみ！
な……仲間→相談できる一番の人は友人である。多くの仲間が支えてくれている。
べ……勉強→自分から進んで勉強する人は定着する。厭々やっても身につかない。

Ⅲ 3年進路の日……就職試験解禁・進学入試手続き開始の3カ月前

県高校総体が終了し、一段落ついた時期が、進路決定の3カ月前となる。この時期に各生徒のモチベーションを高めておかないと、有意義な夏季休業を過ごすことができない。そのため終日進路の勉強をするために進路の日を設定した。

	進学希望者 100名			就職希望者 80名	備 考
	大学短大	各種専門	看護医療	県内就職・県外就職	
1校時 8:45～ 9:35	① 開会行事 ② 受験の準備Ⅰ ・移動方法や交通費・宿泊費について ・県外の住まいについて			進路部担当	体 育 館
2校時 9:45～ 10:35	市武道館柔道場 進学講話 大学進学と短大進学、専門学校 その卒業時に待っているもの！ (キャンパスネットワーク)			市武道館会議室 面接ガイダンス(就職編) 就職試験好印象の最低条件 (オフィスファルコン)	市武柔道場 市武会議室
3校時 10:45～ 11:35					
4校時 11:45～ 12:35	市武道館柔道場 事前準備の学校訪問について			市武道館会議室 コミュニケーションのとり方	
5校時 13:20～ 14:10	大学短大 個別相談 市剣道場 30名	専門学校 個別相談 市柔道場 50名	看護医療 受験対策 視聴覚室 20名	市武道館会議室 手続日程ガイダンス 進路部就職担当者	市武剣道場 市武柔道場 市武会議室 視 聴 覚 室
6校時 14:20～ 15:10	ベネッセコー ポレーション	キャンパス ネットワーク	新 宿 セミナー	市武会議室 就職作文対策ガイダンス	
放課後 15:40～ 18:00	市武会議室 15:40～16:30 小論文対策演習会 市武柔道場 個別進学相談会 進路部進学担当			市武柔道場 15:40～18:00 就職個別相談会 賃貸個別相談会 働きながら学ぶ 進路部担当	市武柔道場 市武会議室
夜	保護者講演 (キャンパスネットワーク)				

4 成果と課題

- 1年次のインターンシップでは、中学校での体験を深化させ、8時間労働(休憩休息を除く)を各就労先をお願いするとともに、生徒の希望により教員が外部に連絡をして就労場所を確保している。受け入れ先によっては清掃や在庫整理などのみで実労をさせてもらえない状況があるものの、多くの企業で就労体験生徒のための内容を準備し始めている。また、他の企業から参考としてもらうために、就労日誌や感想体験記を製本し、生徒が後日お礼に訪問する際に持参している。
- 2年次に酒田市との共催で行う希望者対象のインターンシップは、高校を卒業したらすぐに働ける職場をあらかじめ準備し、希望する生徒をその後に募るという流れで今年度から始めた取り組みである。生徒は笑顔とコミュニケーションの大切さを学んだと同時に仕事に対する意識と責任を学んだ。

○郵便局にての生徒Aの感想

「今回の体験で今まで分からない事が多かった分、知る事がとてもたくさんありました。私はまだまだ社会のわからない事がいっぱい、知らなければいけない事がたくさんあると思います。将来自分がどのようにして生き、どのような仕事に就いて過ごしていきたいかを、もう一度よく考えたいと思います。」

○洋菓子販売の生徒Bの感想

「販売の仕事は、お客様にとって、私は学生という甘えが許されない責任のある仕事ということを自覚させられました。」

○福祉施設の生徒Cの感想

「一日の目標を決めて仕事をする人は、同じことの繰り返しの中に仕事に対して楽しさを感じられる人と教えてもらいました。挨拶はコミュニケーションの第一歩と感じました。」

- 卒業生と語る会では、誰のために働いているのかの説明や資格の重要性を聞き、仕事に楽しさを感じられるまでには、何度辞めようかと考えたかわからないという生の声が、将来の安易な離職に歯止めをかけている状況である。誰でも同じことを考える中で、辞める事は逃げる事という言葉が生徒には響いたようである。
- 進学する生徒は将来、社会にでて働くために上級学校を選択し進学する。職業選択の幅が広がると同時に職業に関する専門性の深化が求められる。進学する上級学校で一生を過ごす生徒は皆無であり、最終的な選択は、やはり就職である。誰のために何をして働くのかの意識なくして就職はできない。職業観のない生徒は進学後も働くことに関しての意識が低く、高校在学時から自分のキャリアについて深く考えなければ、進学しても最終選択を先送りしていることに他ならない。多くの卒業生が自分の選択した業界で活躍している現在だが、その意識を変えてくれたのは高校卒業時に就職した生徒の取り組みである。就職希望者の履歴書作成や作文・面接練習が進学希望の生徒に大きな影響を与えている。
- 教員の常識は社会の中では通用しないことが多々ある。そのため生徒にキャリアについて語る前に教員の姿勢が変わらなければならない部分がある。企業の方との電話の受け答えや、

面談終了後の見送り等において、クレームをいただくことがある。誰が指摘するのかといえ
ば外部の方であり、商品クレームと異なり接客クレームは悪い噂の発信源になる。中学生の
募集活動からはじまり卒業時の進路決定まで、社会の常識に徹する姿勢が生徒を育てると考
えている。この姿勢に共感した外部の方々が生徒のために遠方から来て快く講話をしてくれ
ている。東京労働局の若年者雇用対策主任やロッテの商品開発室長、就職内定王の唐沢明氏、
山形県内で活躍している多くの著名人が熱く生徒に語ってくれている。その機会が教員の質
の向上を図るいい機会になっている。

- (6) 本校の卒業生についての最重要課題は就職決定者の早期離職や転職、進学合格者の進路変
更等である。一度決めたことに関して、周囲の人からのアドバイスを聞く耳を持たない生徒
が増える傾向があるなかで、物事には裏と表があることを見る目を持たせる必要がある。そ
の機会を今後提供することがキャリア教育に必要なことだと考えている。在職調査や在籍調
査を行うことで卒業生の動向を把握すると共に、企業や上級学校と今後も連絡を密に取り
合っていく必要があると考えられる。

5 最後 に

女子生徒の就職指導は、企業の求める人材にいかになじめるかである。生徒は、やりたい仕
事・やれる仕事から職種の選択をするが、その仕事以外の仕事をできる人材を企業は求めている。
つまり、やらなければいけない仕事をいかに効率良くこなすかである。キャリアプランの
高校卒業時の初職の成功が今後の人生を左右させる。そのため、20歳までの就労を継続させる
事が重要であり、県外就職した生徒はスキルアップして地元への転職を実現している。選択能
力の育成が後悔しない自己（進路）決定につながると考えている。上級学校へ進学希望してい
る生徒の中には就職場所がないという理由で進学する生徒がいる。就職についての意識が安易
なものにならないためにも、働くことの意義をキャリア教育を通じて学んで欲しいと願ってい
る。

第6章 キャリア教育を推進する指導力の向上

キャリア教育をより効果的に行うためには、教員の指導力向上が不可欠であり、指導力向上の
ために、学校全体で組織的な研修に取り組む必要があります。

(1) 教員の資質・指導力向上

キャリア教育を推進する上で、教員の資質や専門性を高めることが極めて重要です。そのた
めには教員一人一人が、キャリア教育について理解し、特別活動、道徳、総合的な学習の時間、
各教科（科目）における活動が、キャリア教育においてどのような位置づけと役割を果たすの
かについて、十分理解し、認識することが不可欠です。

また、そうした取組や研修を積み重ねながら、児童生徒の発達やそれを取り巻く環境の変化
等について認識するとともに、キャリア教育の実践に必要な知識や指導方法、児童生徒に身
に付けさせたい能力・態度等についての目標設定やその評価方法等を習得していくことが大切
です。

(2) 教員の指導力向上のための研修内容

① キャリア教育に対する理解と認識

キャリア教育が求められる背景やその定義と意義を理解し、キャリア発達の中核となる
能力について、日常的教育活動とつなげることができるようにします。

② 自校におけるキャリア教育プログラム開発能力の養成

児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえ、学校の実践活動全体を見通し、キャリア教育
の全体計画や具体的な指導計画を作成できるようにします。

③ 小学校・中学校・高等学校を通じた発達段階の理解とキャリア発達に必要な諸能力の理 解

キャリア発達をうながすという視点から、小学校・中学校・高等学校の各段階の目標と
なる育成すべき具体的能力や態度を設定し、それを基本的な軸とする構造化された枠組み
に基づいて展開できるようにします。

④ コーディネート能力の養成

校内（カリキュラム開発等）、校外（家庭、地域、企業等との連携・協力）における各
種の活動が目的にそって効果的に働くよう調整できる能力を養成します。

⑤ 児童生徒のコミュニケーション力を育成するための能力養成

コミュニケーション能力を育むためには、まず自分の考えを明確にすること、自分と他
者の考えの相違を知り、互いに尊重することが大切であり、それらを踏まえた「話す能力」
や「聞く能力」、「観察する能力」等の育成が重要です。教師がその必要性を理解すると
ともに、児童生徒の指導においてコミュニケーションの必要性や意味について理解をうなが
すとともに、相互理解のためのコミュニケーション能力を養成できるようにします。

⑥ キャリア・カウンセリング能力の養成

児童生徒一人一人の生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みや迷いを受け止め、自己の可能性や適性について認識を深めさせたり、適切な情報を提供しながら、児童生徒が自己決定と自己責任で進路を選択できるようにするための指導援助です。

キャリア・カウンセリングには、カウンセリングの技法、キャリア発達、職業や産業社会等に関する専門的な知識や技能などが求められることから、こうした専門性を身に付けた教員を養成していく必要があります。また基本的なキャリア・カウンセリングについては、すべての教員が行うことができるようにしていくことが必要です。

⑦ 教育プログラムの公開

小学校・中学校・高等学校という異なる学校種及び同種の学校間の研修交流を図り、キャリア教育に関わるプログラムを相互に評価し合うことで、より充実したキャリア教育の実践を目指します。

(3) 教員研修の実際

以上の点を踏まえ、県教育センターにおいては「平成18年度キャリア教育指導者養成講座」が実施されました。

① 平成18年度キャリア教育指導者養成講座

- ・対象者 47名(中学校23名・高等学校24名)
- ・期 日 平成18年6月20日(火)～21日(水)

(都合で1日目と2日目の講義内容を入れ替えた)

日	時	研修内容・講師等	方 法	場 所
6月20日(火)	9:30～	受付		正面玄関
	10:00～10:10	開講式・オリエンテーション		講 堂
	10:15～12:00	講義 演題「キャリア教育に企業が求めるもの」 講師 企業関係者	講 義	講 堂
	13:00～16:30	講義・演習 ・キャリア教育実践演習Ⅰ キャリア教育に必要なマインドとスキル ・キャリア教育実践演習Ⅱ 自校におけるプログラム開発 講師 その他の講師(県外)	講 義 演 習	講 堂
6月21日(水)	8:30～	受付		正面玄関
	9:00～12:00	講義 演題「山形県のキャリア教育が目指すもの」 講師 大学教授	講 義	講 堂
	13:00～16:15	実践発表・シンポジウム 「県内の先進校の取り組み」について 実践発表校 小・中・高 各1校	実践発表 シンポジウム	講 堂
	16:15～16:30	閉講式・諸連絡		

この研修実施後のアンケート結果は概ね良好でしたが、記述式の意見として次のような内容が寄せられました。(抜粋)

【◎成果 △課題 ☆参考】

- ◎ばやけていた「キャリア教育」像がはっきりした。
- ◎これまでの教育実践をキャリアの視点から見直すことが理解できた。
- ◎イベントの取り組みだけでなく、日常的な取り組みの重要性が理解できた。
- ◎先進校の実践発表では、立ち上げ時の苦労話など参考になった。
- ◎キャリア教育の理解不足のところがおぎなえた。
- ◎生徒の状況に応じた対応の在り方の必要性が理解できた。
- ◎民間講師から、教育関係者とは違う視点の話を聞くことができ大いに参考になった。
- △もっと計画作り、活動作りについての具体的内容を知りたかった。
- △中学校の職場体験のノウハウは今さら必要ない。
- △内容に重なりが多く気になった。
- △悩み相談会的な企画があると、各校の課題がより具体的になるのではないか。
- ☆今後各校でキャリア教育を進める上で、各校の特徴を生かすためにも、より多くの実践例がほしい。

☆キャリア教育自体の理解を学校全体で深めるためにも校長や教頭の参加も意義があると思われる。

☆キャリア教育の意図するところが、なかなか現場まで浸透しない。

② 平成18年度キャリア教育指導者養成講座の成果と課題

初年度となる平成18年度は、キャリア教育の意義やねらいなど、キャリア教育の理解に重きを置いて実施されました。

キャリア教育の基本的な考え方や、具体的な進め方の理解を含め、目的は概ね達成されたと思われます。特に、先進校の実践発表と、それを受けたシンポジウムおよび研究協議では、活発な意見交換が行われ、これから具体的実践に入ろうとしている学校からの参加者にとって、キャリア教育の方法や実践上の課題、改善の方策などを共通理解できたことは大きな成果でした。

③ 平成19年度に向けて

平成19年度は、次表のように18年度に引き続きキャリア教育の理解を中心とした内容で指導者養成講座が開講されますが、今年度の受講者から、多くの実践例を示してほしいとの要望が出されたことを踏まえて、校種ごとの分科会を設定することとしています。実践発表校数を増やし、実践を通して生じる課題について協議を深めることで、各学校の課題にも応えることができると考えます。

講座受講者が各学校に研修成果をもち帰ることにより、キャリア教育がいっそう推進されることが期待されます。

平成19年度 県教育センターにおける教員研修 実施要項（案）

- 1 名 称 平成19年度キャリア教育指導者養成講座
- 2 目 的 キャリア教育を推進し学校における指導力の向上を図る
- 3 対象者 小学校・中学校・高等学校の担当教員
- 4 期 日 平成19年 6月20日（水）～21日（木）
- 5 会 場 県教育センター
- 6 日 程

日 時	研修内容・講師等	方 法	場 所
6 月 20 日 (水)	9:30～	受 付	正面玄関
	10:00～10:10	開講式・オリエンテーション	講堂
	10:15～12:15	講義 演題「山形県のキャリア教育が目指すもの」 講師 大学教授	講義 講堂
	13:15～16:30	講義・演習 キャリア教育実践演習 演題「自校におけるプログラム開発」 講師 その他の講師（県外）	講義・演習 講堂
6 月 21 日 (木)	8:30～	受 付	正面玄関
	9:00～12:30	実践発表 1 全体会 テーマ「自校のキャリア教育の実践のポイント」 2 分科会 質疑応答・研究協議 発表校 小学校 実践発表校 2校 中学校 実践発表校 2校 高等学校 実践発表校 2校	講堂 302研修室 304研修室 305研修室 研究協議
	13:30～14:30	情報交換会	302研修室 304研修室 305研修室
	14:45～16:15	講義 演題「キャリア教育に企業が求めるもの」 講師 企業関係者	講義 講堂
	16:15～16:30	閉講式・諸連絡	講堂

第7章 キャリア教育の推進に向けて

文部科学省では、先の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成16年1月）の内容をよりわかりやすくする観点から「キャリア教育推進の手引き」（平成18年11月）を作成しました。それは、「各学校の現状を見ると、キャリア教育の必要性は理解されながらも、その意味付けや受け止め方が多様で、教育課程の見直し、体験活動等の取り組みが十分とは言えない」という認識によるものです。

少子高齢化社会、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進み、進路をめぐる環境は大きく変化しているのに加え、教育を取り巻く環境の大きな変化、若者の勤労観・職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質や能力の不十分さ等についても指摘されています。このような背景から、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会人・職業人として自立していくことができるよう、キャリア教育が一層推進・充実されることが期待されています。

キャリア教育は学校の全ての教育活動を通して行われるため、それを効果的に推進する「キャリア教育推進委員会」（仮称）のような校内組織を設置する必要があります。そして、学校教育目標や教育方針にキャリア教育を位置付け、教職員の共通理解を図るための校内研修の実施、キャリア教育の視点での教育課程の見直しと改善など、横断的な取り組みが必要です。県立谷地高等学校では、「新しい谷地高」像を掲げて、キャリア教育を取り入れた「在り方生き方指導」の推進を図るため、「総合学習検討委員会」を設置し、生徒に身に付けさせたい力の明確化や3年間を見通した体系的な実践を行っており、キャリア教育を学校の経営課題として位置づけています。

従来の進路指導を中心にした取り組みは、全体として脈絡に乏しい多様な活動の寄せ集めになりがちで、生徒の内面的変容や能力・態度の向上等に結びつかないきらいがありました。こうした課題の克服には、発達課題の達成を支援する系統的な指導・援助の意識や観点に基づいた教育課程の改善が必要不可欠です。各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の取り組みが、児童生徒のキャリア発達の観点で有機的に関連付けられているか、発達課題を踏まえた具体的な活動計画が立てられ、全体として体系的な取り組みが展開できるようになっているか等、検討する必要があります。酒田市立酒田中央高等学校では進路指導全体構想図を作成し、進路目標と重点課題や教育課程を有機的に関連付け構造化した実践の成果として、生徒の内面的変容や能力・態度の向上を確かなものにしていきます。

小学校では6年間の成長が著しく、社会的・職業的自立に向けその基盤を形成する重要な時期であるため、児童一人一人の発達に応じて、人、社会、自然、文化とかわる体験活動を徐々に広げ、ていねいに設定していくことが大切です。また、係活動や委員会活動、清掃活動、勤労生産的な活動等を通して、白らの役割を果たそうとする意欲や態度を育成することも大切です。そのためにも、教職員や保護者、地域の大人には「小学校は、勤労観、職業観の基盤形成の大切な時期であるということ」を常に意識してかわっていくこと」「一人一人の子どもの心に寄り添い、理解に努めること」「共に夢を持って生きていくこと」などの姿勢が求められます。白鷹町立蚕桑小学校・鮎貝小学校・鷹山小学校では、子どもたちの体験活動を広げるために、白鷹町のキャリア教育の一環として、地域の身近な方々をキャリアアドバイザーとして有効に活用しています。

また、鷹山小学校では、夢を持って生きていくことの大切さなど、キャリア教育と関連させた道徳の授業を行っています。

中学校段階は心身の発達が著しく、自己の個性、能力、適性の理解を深めながら、興味・関心が自己から他者そして社会認識へと広がり、自己と他者や社会との適切な関係を構築する時期です。全教育活動において、キャリア教育に関する学習や活動の内容が計画的、系統的なものとなるよう、教育課程を横断的なものと捉え、それと関連する各教科・領域等相互の接点を考慮して計画することが重要です。特に職場体験などは、生徒のキャリア発達を促す有効な体験活動ですが、イベント的な要素が強く単発的に完結してしまうことなどが指摘されています。系統的意図的な事前事後指導のもとで、望ましい勤労観、職業観の内面的価値形成を意図した学習として、計画的に実施することが大切です。白鷹町立西中学校は、平成6年度から進路指導について文部省の研究指定を受け、地域一体で推進する基盤ができています。また、大石田町立大石田第一中学校では、青年会議所、商工会、建設業協会などの各団体の代表をはじめ、PTAや行政関係者で構成する実行委員会を組織し、職場体験の受け入れを円滑に行っています。

高等学校段階では、自らの能力や適性を客観的に吟味し、自己の意志と責任において進路を主体的に選択できるよう援助していくことが最大の目標になります。その意味でも高校におけるキャリア教育の必要性は高く、その実践に当たっては、まず高校生活への適応を十分に援助し、学習活動を通じて学ぶことの楽しさを味わうことができるようにすることが、キャリア教育の最重要課題と言えます。県立荒砥高等学校では、生徒の実態を把握し町内の中学校と連携を密にして、高校生活への円滑な適応に成果を上げています。また、スペシャリストの養成が求められる中、そのための基本的な能力・態度を身に付けさせるとともに、自ら考え自己変革に励む態度を身に付けさせることも期待されています。こうした取り組みは、教員と生徒の緊密な関係を構築した上に成り立つことは言うまでもありません。

キャリア教育は個々人の生き方にかかわる教育であり、学校、家庭、地域、関係諸機関はそれぞれの役割を認識し、キャリア発達を促す連携システムを構築していく必要があります。職場体験やインターンシップを円滑に行うためにも、家庭のほかに地域や関係機関との連携も必要不可欠であり、学校外の実習資源を有効活用して望ましい勤労観、職業観を培い主体的進路選択を支援できるよう共通理解を図ることが大切です。

キャリア教育の推進に当たっては、次代を担う児童生徒の「生きる力」を育成するために、これまで以上に、キャリア教育の視点に立った管理職のリーダーシップが求められています。

調査研究委員

東北公益文科大学教授	國 眼 眞理子 (委員長)
株式会社ヤマザワ取締役	鈴 木 澄 夫
天童市立千布小学校校長	高 宮 洋 悦
朝日町立朝日中学校校長	伊 藤 宏
山形県立霞城学園高等学校校長	柳 谷 豊 彦

研究協力者 (平成17年度)

白鷹町立西中学校教頭	小 林 宏一郎
山形県立米沢商業高等学校教頭	窪 田 俊 昭

事 務 局

義務教育課	指 導 主 事	大 谷 敦 司
高校教育課	指 導 主 事	鈴 木 慈
教育センター	教育相談部長	細 矢 匡 文 (平成17年度)
		安孫子 道 子 (平成18年度)
	指 導 主 事	高 橋 章 一 (平成17年度)
	指 導 主 事	高 野 浩 男 (平成18年度)
	指 導 主 事	和 田 雅 彦
	指 導 主 事	仁 藤 重 司
	指 導 主 事	樋 口 良 彦
	指 導 主 事	安 藤 俊 昭
	指 導 主 事	富 塚 義 幸 (平成17年度)

委員会審議経過

〈平成17年度〉

第1回 平成17年6月1日 (水)

- (1) キャリア教育調査研究事業計画について
- (2) キャリア教育にかかわる国及び東北各県の動向及び山形県の現状と課題について
- (3) 「小学校・中学校・高等学校を通したキャリア教育の在り方」及び「中学校・高等学校教員キャリア教育研修プログラム」について

第2回 平成17年8月25日 (木)

- (1) キャリア教育にかかわる山形県の取組について
- (2) 「小学校・中学校・高等学校を通したキャリア教育の在り方」の骨格(案)及び「中学校・高等学校教員キャリア教育研修プログラム」(案)について

第3回 平成17年12月7日(水)

- (1) 「小学校・中学校・高等学校を通したキャリア教育の在り方」(案)及び「中学校・高等学校教員キャリア教育研修プログラム」(案)について

〈平成18年度〉

第1回 平成18年6月13日(火)

- (1) 平成18年度キャリア教育調査研究について
(2) 最終報告書作成について

第2回 平成19年1月25日(木)

- (1) 「小学校・中学校・高等学校を通したキャリア教育の在り方」(最終報告書)(案)及び「小学校・中学校・高等学校教員キャリア教育研修プログラム」(案)について

参 考 資 料

1 山形県の現状 ～ 本県高卒者の進学・就職状況等 ～

2 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」国立教育政策研究所生徒指導研究センター

- ① 学校段階別に見た職業的(進路)発達段階、職業的(進路)発達課題
- ② 職業的(進路)発達にかかわる諸能力
- ③ 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)
—— 職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から

山 形 県 の 現 状

～本県高卒者の進学・就職状況等～

1 本県高等学校卒業者の進路状況(全日制・定時制：公立私立合計)[学校基本調査]

	H14年3月卒	H15年3月卒	H16年3月卒	H17年3月卒	H18年3月卒
卒業生数	13,911	13,980	13,478	13,527	12,831
大学等進学者数 (進学率)	5,251 (37.7%)	5,334 (38.2%)	5,155 (38.3%)	5,433 (40.2%)	5,455 (42.5%)
就職者総数 (就職率)	4,071 (29.3%)	3,948 (28.2%)	3,931 (29.2%)	3,877 (28.7%)	3,670 (28.7%)
県内就職者率	(81.3%)	(80.2%)	(80.3%)	(80.4%)	(80.4%)
「進学も就職もして いない者」の比率 〈全国〉	708 (5.1%) 〈10.5%〉	747 (5.3%) 〈10.3%〉	573 (4.3%) 〈9.7%〉	574 (4.2%) 〈8.5%〉	424 (3.3%) 〈7.3%〉

※「就職者総数」は、就職者、就職進学者、専修学校等に入学しつつ就職した者の合計

※「大学等進学者」とは、「大学(学部)」「短期大学(本科)」「大学・短期大学の通信教育部及び放送大学」「大学・短期大学(別科)」「高等学校(専攻科)」及び「盲学校・聾学校・養護学校高等部(専攻科)」へ進学した者及び進学しかつ就職した者をいう

2 本県高等学校卒業者の就職内定状況[文部科学省初等中等教育局調査]

	H14年3月卒	H15年3月卒	H16年3月卒	H17年3月卒	H18年3月卒
山 形 県	92.9	93.4	95.6	95.6	96.0
全 国	86.3	86.7	89.0	91.2	92.8
全 国 順 位	8	8	3	9	12
未内定者数(県)	302	274	177	178	155

3 高卒就職者の1年後の離職率[厚生労働省職業安定局調査]

	H4年3月卒	H5年3月卒	H6年3月卒	H11年3月卒	H12年3月卒	H13年3月卒	H14年3月卒	H15年3月卒	H16年3月卒
山形県	14.7	17.0	17.8	23.9	26.1	24.8	25.1	22.5	22.9
全 国	19.3	18.7	19.9	24.0	26.2	25.7	25.2	25.0	24.9

【参考】フリーターの状況[公立高等学校のみ：高校教育課調査]

(1) 年次別人数：H13.3卒：98人 H14.3卒：92人 H15.3卒：115人 H16.3卒168人

(2) 理由(動機)：H16.3卒の168人中

ア モラトリアム(目標定まらず)	43人(26%)	－ 適性がわからない 等
イ 雇用環境悪化	21人(13%)	－ 目指す職場がない 等
ウ 夢追求型	21人(13%)	－ 芸能人になりたい 等
エ その他	83人(49%)	

国立教育政策研究所生徒指導研究センター

「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」から

① 学校段階別に見た職業的(進路)発達段階、職業的(進路)発達課題

小 学 校 段 階	中 学 校 段 階	高 等 学 校 段 階
〈職業的(進路)発達段階〉		
進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の 時期	現実的探索・試行と社会的 移行準備の時期
〈職業的(進路)発達課題〉		
・自己及び他者への積極的関 心の形成・発展 ・身の回りの仕事や環境への 関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメ ージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かっ て努力する態度の形成	・肯定的自己理解と自己有用 感の獲得 ・興味・関心等に基づく職業 観・勤労観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選 択 ・生き方や進路に関する現実 的探索	・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての職業観・ 勤労観の確立 ・将来設計の立案と社会的移 行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参 加

② 職業的(進路)発達にかかわる諸能力

領域	領 域 説 明	能 力 説 明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

③ 職業観・勤労観を育む学習と「勤労観の育成」との関係が特に強いものを示す

高 等 学 校		
職業的（進路）発達段階		
職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を、進路 職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の 成という側面から捉えたもの。		
職業的（進路）発達にかかわる諸能力		
領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協働・共同してものごとに取り組む。	【自己の理解能力】 自己理解を深め、他者の個性を理解し、互いに認めることを大切にして行動し、能力 【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中でコミュニケーションや豊かな関係を築きながら、自己の力を果たしていく能力
		・自己の職業的な能力・適正を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 ・他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 ・互いに支え合い分り合える友人を得る。 ・自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 ・異なる年齢や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。 ・リーダー・フォロアシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 ・新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索すると必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考える能力 【職業理解能力】 様々な体験を通して、社会・職業生活の関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
		・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 ・就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 ・職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる ・調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。 ・就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 ・社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 ・多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割の意義及びその関連性を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方、進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で行っていく能力
		・学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 ・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。 ・生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 ・職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 ・将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任によりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らいざわしい選択・決定を行っていく能力 【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け、選択結果に適切に対応するとともに、希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定してその解決に取り組む能力
		・選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 ・多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 ・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 ・選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。 ・将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 ・自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 ・理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身につける。

生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から

③ 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)ー職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の観点から

※太字は、「職業観・勤労観の育成」との関係が特に強いものを示す

			小 学 校			中 学 校	高 等 学 校
職業的(進路)発達段階			低 学 年	中 学 年	高 学 年	現 実 的 探 索 と 暫 定 的 選 択 の 時 期	現 実 的 探 索 ・ 試 行 と 社 会 的 移 行 準 備 の 時 期
○職業的(進路)発達課題(小一高等学校段階) 各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面から捉えたもの。			進路の探索・選択にかかわる基盤形成の時期			肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索	自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての職業観・勤労観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加
職業的(進路)発達にかかわる諸能力			職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度				
領域	領域説明	能力説明					
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自己理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	・自分の好きなことや嫌いなことをはっきり言う。 ・友達と仲良く遊び、助け合う。 ・お世話になった人などに感謝し親切にする。	・自分のよいところを見つめる。 ・友達の良いところを認め、励まし合う。 ・自分の生活を支えている人に感謝する。	・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。 ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	・自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。 ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 ・自分の悩みを話せる人を持つ。	・自己の職業的な能力・適正を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 ・他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 ・互いに支え合い分け合える友人を得る。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・あいさつや返事をする。 ・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 ・自分の考えをみんなの前で話す。	・自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。 ・友達の気持ちや考えを理解しようとする。 ・友達と協力して、学習や活動に取り組む。	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。	・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 ・新しい環境や人間関係に適応する。	・自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 ・異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。 ・リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 ・新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。	・いろいろな職業や生き方があることが分かる。 ・分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。	・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 ・自分に必要な情報を探す。 ・気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。	・産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 ・上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 ・必要に応じて、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 ・就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 ・職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 ・調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。	・係や当番活動に積極的に参加する。 ・働くことの楽しさが分かる。	・施設・職場見学等を通して、働くことの大切さや苦労が分かる。 ・学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。	・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。	・就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 ・社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 ・多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。	・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・仕事における役割の関連性や変化に気付く。	・自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法等が分かる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	・学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 ・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	・作業の準備や片づけをする。 ・決められた時間やきまりを守ろうとする。	・将来の夢や希望を持つ。 ・計画づくりの必要性に気付く。 ・作業の手順が分かる。 ・学習等の計画を立てる。	・将来のことを考える大切さが分かる。 ・憧れとする職業を持ち、今しなければならぬことを考える。	・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	・生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 ・職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 ・将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	・自分の好きなもの、大切なものを持つ。 ・学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。	・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ・してはいけないことが分かり、自制する。	・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 ・教師や保護者に対する自分の悩みや葛藤を話す。	・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 ・教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	・選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 ・多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 ・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 ・選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	・自分のことは自分で行おうとする。	・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 ・自分の力で課題を解決しようとする。	・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。	・学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面を生かす。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出し、その大切さを理解する。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。	・将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 ・自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 ・理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から

参 考 文 献

- 「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」平成11年12月 中央教育審議会答申
- 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」
平成14年11月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター
- 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」
平成16年1月28日 文部科学省
- 山形の教育「いのち」そして「まなび」と「かかわり」 第5次山形県教育振興計画
平成16年3月 山形県教育委員会
- 「小学校学習指導要領」 文部科学省
- 「中学校学習指導要領」 文部科学省
- 「高等学校学習指導要領」 文部科学省
- 「心のノート 小学校 活用のために」 文部科学省
- 「平成17年度 キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔応用コース〕
研修資料」 独立行政法人教員研修センター 文部科学省
- 「キャリア教育入門」 三村隆男著 実業之日本社
- 「図解 はじめる小学校キャリア教育」 三村隆男編 実業之日本社
- 「キャリア教育が小学校を変える！」 沼津市立原東小学校 三村隆男共編 実業之日本社
- 「平成17年度 天童市立千布小学校 学習指導年間カリキュラム」
- 「平成16・17・18年度文部科学省キャリア教育推進地域指定 白鷹町におけるキャリア教育」
白鷹町教育委員会
- 「平成18年度 光陵高校のキャリア教育」 神奈川県立光陵高等学校
- 「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き
－児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために－ 平成18年11月
文部科学省・「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議」
報告書～普通科におけるキャリア教育の推進～ 平成18年11月 文部科学省



発行 平成19年3月
発行者 山形県教育センター
天童市大字山元字犬倉塚2,515番地
TEL 023 (654) 2155
URL <http://www.yamagata-c.ed.jp>
印刷所 中央印刷株式会社
山形市銅町一丁目1-5
TEL 023 (631) 5533